

“誰とでも 親しく笑顔で まちづくり”

☆ 津 宮 地 区 ☆

地 域 ま ち づ く り 計 画



津宮まちづくり協議会

目 次

第1章 はじめに

- 1 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 計画の位置づけ・期間・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2章 津宮地区の概要とまちづくりの主要課題

- 1 地区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 2 地域住民の意向・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - ★部会別ワークショップ開催結果・・・・・・・・6
 - ☆住民まちづくりアンケート調査結果・・・・9
- 3 津宮地区の主な課題・・・・・・・・・・・・16

第3章 津宮まちづくり協議会が目指すまちづくり

- 1 まちづくりの基本理念・・・・・・・・・・・・18
- 2 基本理念の実現に向けた活動方針と活動例・・・・19
- 3 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
- 4 地域まちづくり計画実践の流れ（イメージ）・・・・26

むすびに・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

☆ 資 料 編 ☆

- 1 地域まちづくり計画策定経過・・・・・・・・・・・・1
- 2 地域まちづくり計画策定委員会設置要綱・・・・・・・・2
- 3 部会別等ワークショップ関係資料・・・・・・・・9
- 4 住民アンケート調査関係資料・・・・・・・・19
- 5 住民アンケート調査 自由意見・・・・・・・・25

第1章 はじめに

1 計画策定の趣旨

香取市においては、高齢者の割合が平成37年には4割を超えると予測され、さらに世帯構造も単身世帯や小世帯の割合が増加し、核家族化が進行していくことが考えられます。

津宮地区においても例外ではなく、少子高齢化や人口減少が進み、世帯構造が変化する中で、地域コミュニティの再生を図ることが喫緊の課題となっています。

また、東日本大震災のような想定外の災害を乗り越えるためには、日頃の訓練や備えはもちろんのこと、人と人とのつながり“絆”が大切であり、みんなが声をかけ合い、力を寄せ合い、人を気づかいながら、みんなで助け合う“地域の絆”をつくりあげることがこれからのまちづくりにとって一番大切なことです。

津宮地区まちづくり計画は、こうした地域が抱える課題を自分たちで克服し、子どもから高齢者までのすべての方が、将来に向けて安心して生き生きと暮らすことができ、そして、「津宮に住んでよかった」と思えるようなまちづくりを進めるために、津宮地区の将来像を共有し、地域一丸となって取り組む活動方針等を定めたもので、津宮地区におけるまちづくり活動の基本となるものです。

2 計画の位置づけ・期間

この計画は、概ね10年間の活動像を描くものですが、社会情勢の変化も踏まえ、随時見直しを行っていくものとします。

また、本計画に掲げる施策（活動）等の実践については、活動体制や取り組むことのできる環境が整ってきたものから順次取り組んでいくこととし、実際に協議会の活動にご協力いただく住民の皆さんの負担とならないよう、無理のない範囲で、できる活動から始め、徐々に活動の多様化を図っていくこととします。

第2章 津宮地区の概要とまちづくりの主要課題

1 地区の概要

(1) 沿革

津宮地区は、明治22年の町村施行により、津宮村が単独村制を施行し誕生した旧香取郡津宮村に由来し、その後、昭和30年に佐原市に編入されました。

さらに、平成18年の合併による香取市（平成の大合併）へと市の行政区域は拡大してきましたが、これまで一つのまとまった地域として歩んできました。現在は、1区から11区までの11自治会で構成されています。

(2) 地 勢

津宮地区は、香取市の東部に位置し、東は大倉地区、西は佐原地区、南は香取地区、北は大倉新田・新島・北佐原地区とそれぞれ接し、集落は、国道356号沿いとJR香取駅周辺、及び利根川の堤防沿いにまとまっています。

(3) 交 通

JR香取駅が地区内にあり、また、佐原・香取インターチェンジも近く、高速バスの運行もあり、交通の便も比較的良好な地区です。

(4) 歴史・文化

津宮の利根川岸（津宮鳥居河岸）には、香取神宮の祭神がここから上陸したことに由来し、川に向かって津宮鳥居（かつての香取神宮一の鳥居）が立っています。ここは、かつて香取神宮への表参道口であり、式年神幸祭では、ここから神輿を乗せた御座船が出発します。

また、水運盛んな頃は、渡辺崋山や赤松宗旦など多くの文人墨客が津宮を訪れ、鳥居の近くには、燈台の役目を果たした常夜燈（香取市指定有形文化財）や与謝野晶子歌碑などが建っています。



(6) 人口統計データ

全 体 人 口		平成3年	平成13年	平成23年	増減率 (H3/H23)
	佐原区	51,068	49,661	44,809	-12.3%
	津宮地区	2,510	2,465	2,201	-12.3%

年 少 人 口	<u>0歳～14歳</u>	平成3年	平成13年	平成23年	増減率 (H3/H23)
	佐原区	9,164	6,912	5,033	-45.1%
	津宮地区	453	327	221	-51.2%

生 産 年 齢 人 口	<u>15歳～64歳</u>	平成3年	平成13年	平成23年	増減率 (H3/H23)
	佐原区	34,090	32,109	27,690	-18.8%
	津宮地区	1,675	1,557	1,324	-21.0%

老 年 人 口	<u>65歳以上</u>	平成3年	平成13年	平成23年	増減率 (H3/H23)
	佐原区	7,814	10,640	12,086	54.7%
	津宮地区	382	581	656	71.7%

高 齢 化 率		平成3年	平成13年	平成23年	増減率 (H3/H23)
	佐原区	15.3%	21.4%	27.0%	76.3%
	津宮地区	15.2%	23.6%	29.8%	95.8%

2 地域住民の意向

現在、私たちを取り巻く環境は、少子高齢社会の急速な進行に加え、国や自治体の厳しい財政運営や長引く経済情勢の低迷、さらには、東日本大震災からの復興・復旧など、あらゆる面で厳しい社会情勢となっています。

津宮地区においても、今後、地域の子どもたちや高齢者をどう支えていくか、あるいは災害時にどう対応していくかなど、様々な課題が山積しつつあります。

この地域に住む私たちは、その現実を知り、それに伴う将来を見据え、未来の子どもたちへ豊かな地域を守り、引き継ぐために、今できることから取り組みを始めることが必要となります。

そこで、本協議会では、私たちが願う将来の津宮地区はどうあるべきか、今後取り組むべき活動等について、次のとおり、「地域まちづくり計画策定ワークショップ」及び「住民まちづくりアンケート調査」を実施し、地域の多くの皆さんから寄せられた意見を参考にして、私たちが暮らす津宮地区の今後のあり方を検討することとしました。

■ 地域まちづくり計画策定ワークショップ

部会名	開催日時	部会員数
地区担当職員	24年7月30日（月） 午後7時～9時	5名
安全環境部会	24年8月 2日（木） 午後7時～9時	10名
子ども部会	24年8月 3日（金） 午後7時～9時	11名
福祉健康部会	24年8月10日（金） 午後7時～9時	13名
内 容	6～8ページのとおり ※開催結果の詳細については、資料編4～16ページ参照	

■ 住民まちづくりアンケート調査

（1）調査期間：平成24年6月～7月

（2）回答者数：883名

（3）調査結果：調査の結果と分析については、9～15ページのとおり

※回答者からいただいた具体的な意見等については、資料編 25～37ページ参照

地域まちづくり計画策定ワークショップ 開催結果

1 目 的

各部会の所掌分野にかかわらず、あらゆる視点から地域の課題や現状について意見を出し合い、「まちづくりに必要なこと、何のためにやるのか」について共通理解を得るとともに、目指すべき将来像、地域自らが取り組むべき具体的活動内容等を明らかにすることを目的に、第1回各部会及び地区担当職員連絡会議においてワークショップを開催する。

2 内 容

参加者を5～7人程度の班に分けて、以下のテーマについて、“ワークショップ形式”により開催する。

テーマ1：「地域の現状・課題について」

- “気になる現状”（困っていること・地域の弱み）
- “好ましい現状”（良いところ・地域の強み）

テーマ2：「今後地域で取り組むべき活動等について」

- ⇒ ○ “今後、“自分たちでやってみたいと思うことは？”
- “誰かにやってもらいたいと思うことは？”

3 開催日時・場所

	日 時	場 所
地区担当職員	7月30日（月）午後5時45分～	市役所301会議室
安全環境部会	8月 2日（木）午後7時～	津宮 コミュニティホーム
子ども部会	8月 3日（金）午後7時～	
福祉健康部会	8月10日（金）午後7時～	

地域まちづくり計画策定ワークショップでの主な意見

■気になる現状

【防災・防犯・交通安全】

- ・自主防災組織の組織率が低い
- ・地区全体での防災活動が少ない
- ・防災対策が不十分（災害時の対応が不安）
- ・外灯が少なく、防犯面で不安を感じる
- ・国道の歩道幅が狭く、交通量が多い

【生活環境】

- ・ごみ出しマナーの悪い人がいる
- ・農業者の高齢化、後継者不足が進行
- ・若者の雇用場所がなく、流出している

【健康・高齢者福祉】

- ・高齢化が進んでいる（老人が多い）
- ・一人世帯、高齢者だけの世帯が増加
- ・高齢者が気軽に交流できる場がない

【子ども・教育】

- ・少子化が進んでいる（子どもが少ない）
- ・子どもが外で遊ぶ環境が少ない
- ・子ども同士で遊ぶ機会や場所が少ない

【住民交流・地域コミュニティ】

- ・津宮全体や区ごとの交流（話し合い）の機会が以前と比べ、少なくなった
- ・世代間（異世代）の交流、行事がない
- ・自治会未加入者、脱退者が増えている

【その他】

- ・地域の伝統や文化への関心が薄れている
- ・農業従事者の高齢化と後継者の不足

■好ましい現状

【防災・防犯・交通安全】

- ・地域防災意識が芽生えつつある
- ・治安が良い
- ・子どもの安全確保に対する地域住民の認識が高く、実践的な活動をしている
- ・交通事故が少ない

【生活環境】

- ・自然環境に恵まれた住みやすい地域
- ・幼稚園、小学校、中学校、駅、高速バス停などが地区内にあり、便利な地域

【健康・高齢者福祉】

- ・高齢者などを周囲の人が見守っている
- ・高齢者が元気である
- ・高齢者と小学生との交流がある

【子ども・教育】

- ・子どもは元気で、挨拶が良くできる
- ・地域が小学校に協力的である
- ・教育への住民の関心が高い

【住民交流・地域コミュニティ】

- ・近所の仲が良く、協力し合っている
- ・何かあったときに協力し合える風土
- ・まだ2～3世代同居の世帯が多い
- ・コンパクトにまとまった地域

【その他】

- ・地域の歴史、伝統、文化が残っている
- ・10年後も安心して暮らせる地区

■ 今後、取り組むべき活動や要望など

【防災・防犯・交通安全】

- ・ 地区全体で防災に取り組むべき
- ・ 夜間防犯体制の充実
- ・ 高齢者と子供たちが互いに見守れる環境づくり
- ・ 通学路等の安全点検
- ・ 思いやりのある運転の心がけ

【生活環境】

- ・ 自然を守る、地域の環境を守る様々な活動が必要
- ・ 雇用の場の創出、若い人が働ける地域にする

【健康・高齢者福祉】

- ・ 独居老人見守りのシステムづくり
- ・ 高齢者世帯への支援
- ・ 高齢者の生きがいづくり
- ・ 通院など高齢者等の送迎サービス
- ・ 健康増進のための実践の場づくり（地区ごとの健康相談の実施等）

【子ども・教育】

- ・ 地区全体のスポーツ大会の開催
（子どもが主役、または親子で楽しめる、住民交流できるイベント）
- ・ 小学校のイベントで地域参加できるものを増やす
- ・ 放課後の子どもの居場所づくり（学童保育）
- ・ あいさつ運動の励行
- ・ 子どもが外で遊べる環境づくり
- ・ 津宮幼稚園の存続を要望

【住民交流・地域コミュニティ】

- ・ 地域での交流を深めるためにイベント（夏祭りや盆踊りなど）の開催
- ・ 祭りやスポーツ等を通じた地区住民の交流（地区運動会の復活等）
- ・ 今ある祭りを活かす（東西両宮の祭典、10区の獅子舞など）
- ・ 現状のつながりをなくさないような簡易なイベントの開催
- ・ 自治会への加入を推進する
- ・ 行政懇談会を地区で行う
- ・ ボランティア活動などを行う時に、人口の少ない区の負担を地区全体で補完するシステムをつくる
- ・ 地域資源マップを作成する（看護師、医師等の人的資源も含める）

【その他】

- ・ 行政と連携して農業後継者の育成を図る
- ・ 高速バスの増便を働きかける

津宮まちづくりアンケート調査の結果と分析

1 アンケートの概要

(1) 目 的

津宮まちづくり計画を策定するにあたり、地域住民一人ひとりの意見を反映させるため、本地域に在住する住民に対し、アンケート調査を実施した。

(2) 実施時期

平成24年6月～7月

(3) 実施主体

津宮まちづくり協議会

(4) 対 象

津宮地区の高校生以上の住民

※2人以上の世帯は2部、単身世帯は1部調査票の記入(回答)を依頼

(5) 方 法

配布・回収とも24年度区長会(各区長)の協力を得て実施

(6) 回答者数

調査対象世帯数：780世帯

回収票数：883票

(7) 集計結果記載方法

アンケートは、「選択方式」を採用しており、「複数選択」を可としている設問があります。その場合の比率は、回答者数に対する割合を表記しています。

津宮まちづくりアンケート調査 最終集計結果

問１. お住まいは？

項目	回答数	割合
津宮１区	77	8.7%
津宮２区	93	10.5%
津宮３区	79	8.9%
津宮４区	98	11.1%
津宮５区	47	5.3%
津宮６区	49	5.5%
津宮７区	46	5.2%
津宮８区	66	7.5%
津宮９区	81	9.2%
津宮１０区	77	8.7%
津宮１１区	151	17.1%
非加入	19	2.2%
計	883	100.0%

問２ 性別は？

項目	回答数	割合
男性	403	45.6%
女性	383	43.4%
無回答	97	11.0%
計	883	100.0%

■性別は、無回答が１１％あるものの、男性からの回答が女性を約２％上回っている。

問３ 年齢は？

項目	回答数	割合
15～18歳	23	2.6%
19～29歳	54	6.1%
30～49歳	169	19.1%
50～64歳	286	32.4%
65～74歳	155	17.6%
75歳以上	101	11.4%
無回答	95	10.8%
計	883	100.0%

■年齢別は、３０歳以上の回答が９割で、２９歳以下は約９％である。

問４ 家族は？

項目	回答数	割合
１人	74	14.3%
２人	152	29.3%
３人以上	292	56.4%
無回答93名		
計	518	100.0%

■３人以上の家族で暮らしている世帯が半数以上あるが、一人暮らし世帯も１４％ある。

■年齢別では、６５歳以上の一人暮らし世帯が約３０％あり、高い状態である。

問5 住んでいる理由は？

項目	回答数	割合
生まれも育ちも津宮地区	414	46.9%
結婚した相手が津宮地区出身者だった。	222	25.1%
新たな居住地として津宮地区に住んでいる。	142	16.1%
その他	5	0.6%
無回答	100	11.3%
計	883	100.0%

■「生まれも育ちも津宮地区」の人が約47%、元々は津宮出身でない人（「結婚した相手が津宮地区出身者だった。」と「新たな居住地として津宮地区に住んでいる。」と回答した人）は約41%であったことから、元々から津宮の人が若干上回っている。

問6 住みやすいと思う？

項目	回答数	割合
思う	560	63.4%
思わない	101	11.4%
わからない	121	13.7%
無回答	101	11.4%
計	883	100.0%

■約63%の人が「住みやすい」地域と回答している。

■年齢別では、どの年代においても半数以上が「住みやすい」と回答しているが、年齢が若くなるにしたがって「住みやすい」と回答する人の割合は減っている。

問7 治安

項目	回答数	割合
良いと思う	511	57.9%
以前と比べると悪化	137	15.5%
わからない	130	14.7%
無回答	105	11.9%
計	883	100.0%

■約58%の人が津宮地区の「治安が良い」と感じているが、「以前と比べて悪化している」と感じている人も137人（約16%）いる。

問8 住み続けたいと思う？

項目	回答数	割合
ずっと住んでいたい	474	53.7%
当面は住みたい	211	23.9%
いずれは他地域に移りたい	29	3.3%
わからない	76	8.6%
無回答	93	10.5%
計	883	100.0%

■全体の3／4以上の人が津宮地区に住み続けることを希望している。

■「いずれは他地域に移りたい」と津宮地区からの転出の意思をはっきりと示している人が29人（約3％）いて、年齢が若くなるにしたがって「他地域に移りたい」と回答する人の割合が増えている。

問9 子や孫に住んでほしいと思う？

項目	回答数	割合
ずっと住んでほしい	267	30.2%
他地域に住んでもよい	213	24.1%
若いうちは他地域でも構わないが、いずれは住んでほしい	185	21.0%
わからない	116	13.1%
無回答	102	11.6%
計	883	100.0%

■子や孫にも津宮地区に住んでほしいと思っている人は約51％いるが、他地域に住んでもよいと思っている人も約25％いる。

問１０ 地域の将来を考えるうえで、特に重視すべきことは？（複数選択）

	項目	回答数	全回答数に対する割合
1	近所や地域のつきあい・助け合い	523	59.2%
2	子どもの安心・安全の確保	370	41.9%
3	震災、水害、火災などに対する防災対策	336	38.1%
4	通院や買い物など“生活の足”の確保（バスなどの公共交通の充実）	260	29.4%
5	子育て支援活動の充実	230	26.0%
6	高齢者の生きがいや健康づくり	223	25.3%
7	雇用の場の確保	208	23.6%
8	治安維持のための防犯対策・防犯活動	183	20.7%
9	青少年の健全育成	163	18.5%
10	田園景観、水辺や緑などの自然環境の保全	137	15.5%
11	住民の健康維持や介護予防のための取組み	121	13.7%
12	地域を担う人材の育成	121	13.7%
13	地域の清掃活動、ごみのポイ捨て解消などによる生活環境の改善	120	13.6%
14	農業後継者の育成（農業の振興）	118	13.4%
15	祭りやイベント、スポーツ等を通じた地区住民の交流	108	12.2%
16	歴史や文化の保存・継承	81	9.2%
17	ボランティア活動の推進	68	7.7%
18	個人のプライバシー	62	7.0%
19	その他	9	1.0%

■全体では、「近所や地域のつきあい・助け合い」を重視する人が約６０％、次いで「子供の安心・安全の確保」、「震災、水害、火災などに対する防災体制の充実」を求める人がそれぞれ約４０％前後いることから、地域内の誰もが顔見知りで、気軽にコミュニケーションが取れる地域社会（コミュニティ）の確立により、「安全・安心なまちづくり」を求めているものと思われる。

また、日頃の防災訓練や災害時の援護体制づくりなどによる自然災害への不安解消の検討が必要と思われる。

■また、「移動手段の確保」、「高齢者の生きがいや健康づくり」など、高齢者に関係する取組みを重視すべきとの回答も多く、今後、地域における高齢者福祉をどのように展開していくか検討が必要と思われる。

問１１ 少子化問題・地域でできることは？（複数選択）

	項目	回答数	全回答数に対する割合
1	若者が地域に定着できるよう、魅力ある地域づくりを行う	424	48.0%
2	放課後に面倒を見るなど、地域全体で津宮地区の子供たちを育て、見守り、子育てがしやすい環境づくりを行う	227	25.7%
3	子ども時代に地域の自然の中で遊び、学ぶことにより、地域への愛着心を育む	156	17.7%
4	祭りなどの地域行事を通した地域住民のコミュニケーションを充実させ、人と人とのつながりを大切にしたい地域づくりを行う	139	15.7%
5	少子化対策は全国的に行われていても解決に至っていない難しい問題であるので、地域でできることはない	96	10.9%
6	わからない	80	9.1%
7	その他	31	3.5%

■少子化問題については、「若者が地域に定着できるよう、魅力ある地域づくりを行う」が、５０％近くでどの年代でも最も多く、次いで「地域全体で、津宮地区の子供たちを育て、見守り、子育てがしやすい環境づくりを行う」が約２６％の意見である。

■また、約１１％ではあるが、「地域でできることはない」と思っている人もいる。

問１２ 安全対策・地域で行えば良いことは？（複数選択）

	項目	選択数	全回収数に対する割合
1	高齢者世帯の健康確認を含めた見守り活動	343	38.8%
2	子どもの通学の際の見守り活動	338	38.3%
3	災害時における要援護者の把握と援護体制づくり	333	37.7%
4	地区全体で毎年、防災訓練を行い、地震などの自然災害や火事などに備える	183	20.7%
5	高齢者を対象にした交通安全教室や防犯教室の開催による意識啓発	108	12.2%
6	安全・安心対策は各自で行うことであり、地域が行うことではない	35	4.0%
7	その他	12	1.4%

■安全対策については、「高齢者世帯の健康確認を含めた見守り活動」、「子どもの通学の際の見守り活動」、「災害時における要援護者の把握と援護体制づくり」がそれぞれ４０％近い意見があり、主に日常から見守り等が必要と思われる者に対する活動を支持する意見が多かった。

問13 高齢者福祉・地区にあったらいいと思うサービスは？（複数選択）

	項目	回答数	全回答数に対する割合
1	病院や買い物などへの送迎サービス	345	39.1%
2	趣味の活動の場など、多くの方とふれあえる機会の提供	293	33.2%
3	好きなときに集まり、交流ができる（交流サロンなど）の開設	240	27.2%
4	高齢者などを対象にした屋間の見守り活動	176	19.9%
5	健康維持や介護予防のための健康教室の開催	161	18.2%
6	高齢者と同居していないので、わからない	25	2.8%
7	その他	9	1.0%

■高齢者福祉については、「病院や買い物などへの送迎サービス」が約40%と最も高く、いわゆる交通弱者といわれる高齢者の移動手段の確保が課題となっている。

■また、「趣味の活動の場など、多くの方とふれあえる機会の提供」、「好きな時に集まり、交流ができる（交流サロンなど）の開設」の意見も比較的多く、高齢者の意思により自由に集える機会を望んでいる傾向も見られた。

問14 「まちづくり」のイメージは？

項目	回答数	割合
行政が主体的に進めるもの	93	10.5%
一部の人たちが行っているもの	62	7.0%
住民が主体的に行うもの	76	8.6%
住民と行政が協働で行うもの	444	50.3%
わからない	63	7.1%
無回答	145	16.4%
計	883	100.0%

■「住民と行政が協働で行うもの」が約半数と多く、協働によるまちづくりのイメージが少しずつ浸透しつつある。

問１５ 「住民参加」についての考えは？

項目	回答数	割合
何事にも積極的に参加したい	46	5.2%
内容や頻度等によっては、積極的に参加したい	199	22.5%
頼まれれば、可能な範囲で参加・協力したい	352	39.9%
関心がない	34	3.9%
わからない	107	12.1%
その他	7	0.8%
無回答	138	15.6%
計	883	100.0%

■「積極的に参加したい」と回答した人が約２８％、「頼まれれば可能な範囲で参加・協力したい」を含めると約６８％の人がまちづくり活動に参加・協力したいと感じている。

問１６ 設立を知っていましたか？

項目	回答数	割合
知っていた	431	48.8%
知らなかった	309	35.0%
無回答	143	16.2%
計	883	100.0%

■約４９％の人が協議会の設立を「知っていた」と回答している一方、３５％の人が「知らなかった」と回答していることから、「知らない人」がまだ約５０％あるので、協議会に対する住民への周知をさらに図っていく必要がある。

3 津宮地区の主な課題

津宮地区の現況及び地域住民の意向等を踏まえ、津宮地区におけるまちづくりの主な課題について整理します。

(1) 少子高齢化への対応

- ・若年層の地区外への流出が目立ち、人口が減少する一方、高齢者一人暮らし世帯や高齢者夫婦世帯が増加しています。
- ・少子高齢化が進み、高齢者にとっても、またその家族にとっても、地域内の防犯・防災面や認知症や健康など福祉において、不安を解消していく必要があります。
- ・少子化や保護者の就労環境及び地域社会の様態の変化により、津宮幼稚園の就園率が年々低下していることから、幼児教育や学童保育の充実など、安心して子育てができる環境づくりが求められています。
- ・高齢により自ら自動車を運転出来ない人が増え、通院や買い物等日常生活の不便さから、閉じこもりがちになってしまう高齢者が出てくることが予想されます。
- ・結婚しない人が増え、少子化が進むことにより、今後、自治会や消防団などの地域活動の担い手不足が懸念されることから、地域を担う後継者やリーダーの人材育成を進める必要があります。
- ・農業従事者の高齢化が進んでいる中で、今後、休耕田や耕作放棄地が増加していく事が予想され、今後は、担い手や後継者の育成を進めていく必要があります。

(2) 地域コミュニティ（住民同士の絆）の強化

- ・津宮地区では、隣近所や人と人とのつながりが強く、地域内で助け合えるコミュニティができていますが、近年、人口の減少や価値観やライフスタイルの多様化等に伴い、地区全体で集まる機会などが少なくなっていることにより、住民同士の絆が弱くなるなど、地域コミュニティの弱体化が懸念されます。

(3) 安心・安全な地域の創出

- ・個人情報保護に配慮することによって、隣近所の気軽な助け合い、日常的な安否確認、見守りなど、昔であれば比較的容易に行われていた日常的

なまとり、つながり（地域で支え合う基盤）を維持することが難しくな
ってきています。

- 東日本大震災や、全国各地で頻発する自然災害などで、地震や水害などの
自然災害への住民の不安を解消していく必要があります。

- 放課後や休日など、犯罪や事故から子どもたちを守り、安全な遊び場所の
確保のための見守り活動をはじめ、地域ぐるみで子育て環境を充実させて
いく取組みが求められています。

- 国道 356 号の歩道の幅員が狭い箇所が多いことから、地域で子どもや高
齢者の交通安全対策について検討する必要があります。

（４）自然環境、歴史、伝統文化の保全と継承

- ごみのポイ捨てや不法投棄、ごみの分別の不徹底が見受けられるなど、緑
豊かな自然景観が阻害されることが懸念されます。そのため、豊かな自然
の保全・活用を図るとともに、清掃や美化活動の推進が必要です。
- また、自然環境とともに、地区の豊かな歴史と文化についても次の世代に
引き継いでいくためには、世代間交流を通して、ふるさとの歴史・文化、
伝統行事を学び、ふるさとの誇りが持てるようにする必要があります。



第3章 津宮まちづくり協議会が目指すまちづくり

津宮地区の現状と課題を踏まえ、住民アンケートや計画策定ワークショップの結果をもとに、津宮地域において、私たちが展開していくまちづくりに向けて、次の4つの基本理念を設定しました。

1 まちづくりの基本理念

I 人と人とのふれあいを大切にする地域づくり 【住民交流・教育】

住民同士の交流の機会を提供し、住民相互の交流と相互理解を深めるとともに、地域で子どもたちを育み、安心して子育てができる環境を創出することにより、地域住民とのふれあいや信頼関係を育みます。

II 互いに助け合い、笑顔で暮らせる地域づくり 【福祉・健康】

高齢者が集う場づくり、健康づくりや生涯学習の機会を提供することにより、住民誰もが健康で、生きがいや充実感を持って暮らせるように、地域ぐるみで地域福祉と健康づくりを推進します。

III 安全で安心して暮らせる地域づくり 【防災・防犯・交通安全】

防災訓練などを実施し、地域住民の連携と協調が図れる災害に強い地域づくりを展開するとともに、一人ひとりの防犯意識及び交通安全意識を高め、誰もが安全に暮らせる、犯罪や交通事故のない環境づくりを行います。

IV 豊かな自然と歴史・文化を守り、次代につなげる地域づくり【地域振興】

豊かな自然や生活環境を守り、次の世代へ伝えるため、地域の自然や生活環境の充実を推進します。また、地域の歴史や伝統文化に地域みんなが関心を持ち、継承・発展させる活動を展開することにより、地域の愛着と誇りを育みます。

2 基本理念の実現に向けた活動方針と活動例

☆基本理念Ⅰ：人と人とのふれあいを大切にする地域づくり
【住民交流・教育】

☆活動方針1：人と人との深いつながりを大切にして、地域社会での人間関係の輪を広げ、誰もが顔見知りの、地域コミュニティを目指します！

項目名・連携団体	事業内容等
住民交流イベントの充実 区、地域活動団体、住民 等	地域のあらゆる人が参加しやすい住民交流イベントを開催・支援することにより、住民相互の交流を深めるとともに、スポーツ・レクリエーション活動を推進し、住民交流と併せて住民の健康と体力を増進する。 【活動例】 ・夏祭り（子ども会ごとに毎年7月実施、今年度は全体で交歓会実施）、盆踊り、音楽会、カラオケ大会、地域作品展、等 の開催 ・地区対抗運動会、防災（防犯）運動会、ウォーキング大会、グラウンドゴルフ大会、ニュースポーツ体験等の各種スポーツ大会の開催 ・既存の住民交流イベントの支援
広報紙の発行 住民、地区担当職員等	協議会の広報紙 “（仮）津宮まちづくりだより” を年4回（季刊）発行し、協議会や各種団体の活動内容、地域の話題などを地域住民に広く周知し、情報の共有を図り、相互理解を深める。
区長会や各種団体との連携の強化	区長会や各種団体との意見交換を定期的に行い、各団体の活動計画や実績をもとに、地区全体の活動を調整する。
地域まちづくり計画の推進・調整	持続的な事業展開を行うため、公益性に加え、楽しい活動となるよう、各部会間の情報の共有を図るとともに、事業の調整や研修会、アドバイザー派遣事業などを行う。

☆活動方針２：地域で子どもたちを育み、子どもたちが将来も住み続けたいと思ってもらえるような活動を行います！

項目名・連携団体	事業内容等
世代間交流の推進 区、高齢者クラブ、地区社協、小学校、幼稚園、PTA、子ども会、住民 等	恒例の津宮幼稚園の夏祭りを地区全体の夏祭りとして開催するなど、世代間交流を通じて、子どもたちの健全な育成を進める。 【活動例】 ・地区夏祭りの開催 → 地域振興部会と連携 ・全子ども会参加による親子レク（交歓会）の開催 ・その他、かるた、竹とんぼなどの昔遊び体験、芋掘り、焼き芋大会、料理体験教室、クリスマスパーティ、音楽会、子ども作文・写真コンクールなど・・・・・・・・
子どもの遊び場・居場所づくり 青少年相談員、PTA、子ども会、小学校、幼稚園、地区社協、住民 等	スポーツを通じ、子どもの体力の向上と協調性を育むとともに、子どもたちが外で群れて遊び、自ら育つ環境（遊び場・居場所）づくりを行う。 【活動例】 ・ドッジボール（小学校ふれあい集会で実施）、ヘルスバレー（青少年相談員行事として実施）などのスポーツ大会の定期的な開催
安心して子育てできる環境づくり 区長会、地区社協、幼稚園、小中学校、PTA、住民 等	地域で安心して子育てができる環境づくりを推進するため、行政と連携しながら、幼児教育や学童保育の充実及び地域教育活動の推進等について調査検討し、実践する。 【活動例】 ・幼稚園や学童保育等の環境整備に係る検討及び実践 ・小中学校と地域住民との懇談会の開催
小学校・幼稚園等との連携活動 区、小学校、幼稚園、PTA、地域活動団体、住民 等	地域の子どもたちが通う小学校や幼稚園等と地域が連携したまちづくり活動を行う。 【活動例】 ・小学校創立記念日や津宮幼稚園七夕祭りと連携した住民交流イベント開催

☆基本理念Ⅱ：互いに助け合い、
笑顔で暮らせる地域づくり【福祉・健康】

☆活動方針３：住民誰もが健康で、生きがいや充実感を持って暮らせる活動
を推進します！

項目名・連携団体	事業内容等
高齢者の見守り活動の推進 区、民生児童委員、地区社協、住民 等	高齢者やその家族が安心して生活ができるように、地域ぐるみで高齢者の見守り活動を行うとともに、活動を通して地域住民相互の交流を図る。 【活動例】 ・散歩など日常生活の中で見守り活動を行う、または区単位で日常的に行える体制づくりなど、地域ぐるみの高齢者世帯等の見守り活動の研究
高齢者の集いの場（生きがい）づくり 地区社協、高齢者クラブ、地域活動団体、住民 等	高齢者の集いの場を提供し、心身ともに健康でいきいきと生活できる環境の整備を行う。また、高齢者の居場所づくりを展開することで、高齢者の家族が安心して生活できるようにする。 【活動例】 ・一人暮らし高齢者ふれあいサロン、日帰旅行の実施 ・地区敬老会（高齢者の集い）、歌謡ショー等の開催 ・趣味教室、地区文化祭（展覧会）の開催 ・地区文化（趣味）サークルの立上げ
健康づくりの実践の場づくり 地区社協、高齢者クラブ、地域活動団体、住民 等	ラジオ体操、ウォーキング、グラウンドゴルフなど気軽に取り組める健康づくりの実践の場づくりを支援し、住民の健康増進を図る。 【活動例】 ・夏季ラジオ体操大会、健康スポーツ教室などの開催 ・ウォーキング大会、グラウンドゴルフ大会などの健康に役立つスポーツイベントの開催 ・専門家による講演会、研修会などの開催

☆基本理念Ⅲ：安全で安心して暮らせる地域づくり
【防災・防犯・交通安全】

☆活動方針4： 防災意識の高揚と地域ぐるみの防災活動を推進します！

項目名・連携団体	事業・内容・主体等
地域防災体制の確立 区、自主防災組織、消防団、住民 等	各区における自主防災組織の設立及び育成を支援するとともに、地区全体の防災体制のあり方等について検討する。 【活動例】 ・自主防災組織設立に関する説明会の開催 ・地域防災体制を考える検討会議の設置、開催
防災訓練等の開催 区、自主防災組織、消防団、地域活動団体、住民 等	行政、関係機関などと連携しながら、防災に関する各種訓練や専門家を招いた講習会等を開催し、知識や技術及び住民意識の向上を図る。 【活動例】 ・消防署による防災訓練、応急救命講習会等の開催 ・災害時炊き出しボランティアの募集、炊き出し訓練の実施 など
災害対応マニュアルの作成 区、自主防災組織、消防団、地域活動団体、住民 等	避難場所の確認や非常時持出し品、備蓄品準備、災害時の対処方法、各種連絡先一覧など身近な対応策をまとめた災害対応マニュアルを作成することにより、地域の自主防災力を高める。 【活動例】 ・地域（自治会、各種団体等）間緊急連絡体制の整備 ・災害対応マニュアルの作成
災害弱者の把握 区、自主防災組織、消防団、民生児童委員、地区社協 等	自治会などが中心となって、地域内の一人暮らしや高齢者世帯などの災害弱者の把握について検討し、災害時の迅速な救出活動につなげる。 【活動例】 ・「町内会名簿」、「災害時要援護者登録制度」等の検討
危険箇所の把握 区、自主防災組織、消防団、住民 等	自治会などが中心となって、地域内の危険箇所などの把握を行い、その結果をマップに落とし込み、全世帯へ配布する。地域だけで対応できないことについては、行政へ提言し、早期解決を図る。

☆活動方針５：地域ぐるみで犯罪や交通事故のない地域づくりを推進します！

項目名・連携団体	事業・内容・主体等
通学時見守り・防犯活動の推進 交通安全協会、防犯ボランティア、PTA、小中学校、青少年相談員、住民 等	防犯パトロール活動を拡大するとともに、子どもたちをはじめ住民への声かけも行う。 また、不審者の出没や認知症高齢者の搜索等々、「いざ」というときに情報の迅速な伝達や収集を行い、地区内を巡回するなどの対応をする。 【活動例】 ・学校支援ボランティア、健康づくりを兼ねた“散歩パトロール”や“自転車パトロール”等個人ボランティアの募集及び活動支援 ・青色回転灯装着車パトロール活動の拡大
防犯・交通安全意識の啓発 交通安全協会、防犯ボランティア、駐在所、小中学校、住民 等	研修会の開催や広報紙による啓発、標語募集を行うなど、防犯や交通安全に関する住民意識の向上を図る。 【活動例】 ・駐在さんによる防犯、交通安全教室の開催 ・標語募集、のぼり旗の設置による意識啓発
地域防犯・交通安全体制の充実 区、交通安全協会、防犯ボランティア、駐在所、住民 等	防犯、交通安全に係る活動団体や警察との連携による地域防犯パトロール・交通安全体制の強化を図る。 【活動例】 ・各種団体の活動PR、担い手の確保・育成の支援 ・地域防犯体制を考える検討会議の設置、開催
注意箇所の把握 区、交通安全協会、防犯ボランティア、小中学校、住民 等	交通や防犯の注意箇所や避難場所等を歩いてチェックし、その結果をマップに落とし込み、全世帯へ配布する。 地域だけで対応できないことについては、行政へ提言し、早期解決を図る。

☆基本理念Ⅳ：豊かな自然と歴史・文化を守り、
次代につなげる地域づくり【地域振興】

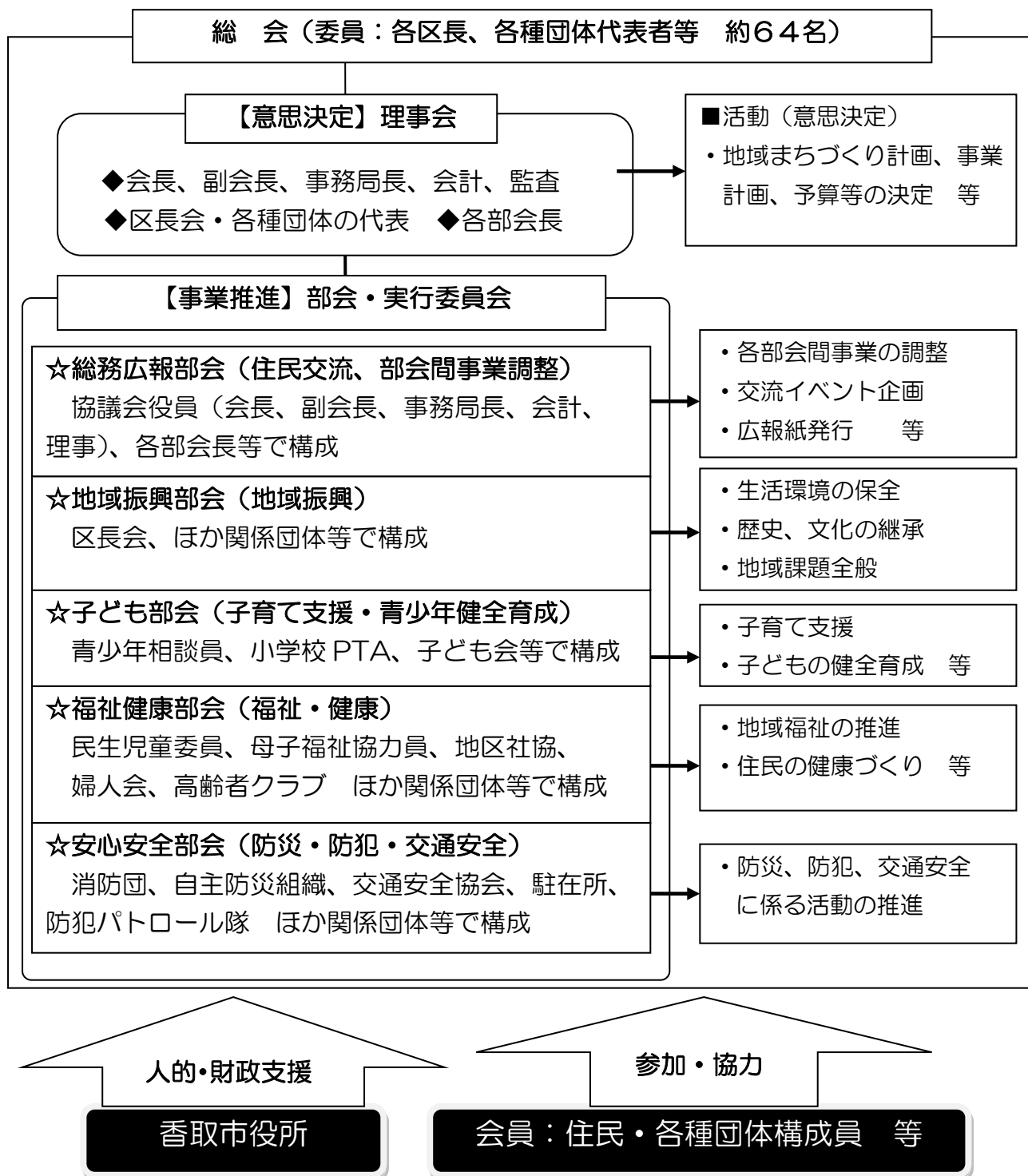
☆活動方針6：地域の生活環境や文化を守り、次の世代への引き継ぎを
推進します！

項目名・連携団体	事業・内容・主体等
環境美化運動の推進 区、地域活動団体、 住民 等	定期的な美化清掃活動やごみの減量化を地域ぐるみで推進する。 また、ごみが多く捨てられている箇所の調査、不法投棄防止、ごみの分別などの環境課題に関する啓発を行う。 【活動例】 ・地区一斉ごみ拾い（定期的美化清掃活動）の実施 ・児童公園や香取駅周辺、神道山、津宮河岸周辺等の清掃 ・ごみのポイ捨て看板設置及び不法投棄マップ作成 ・“花いっぱい運動”の実施 ・資源ごみ回収の推進 ・バザー、フリーマーケットの開催
地域の歴史や文化の 保全活動 区、地域活動団体、 住民 等	身近な地域の歴史や文化に関する体験学習等の機会を提供したり、地域に伝わる祭事や行事、生活文化等の記録化を推進することにより、生まれ育った地域への愛着をいっそう増進する。 【活動例】 ・地域行事等のビデオ、写真による映像記録化の推進 ・昔の話や写真等をもとにした記録集の作成 ・地域スポットを巡るウォーキング大会の開催 ・地域の歴史や文化を知るための子ども学習会の開催 ・案内看板の作成、設置

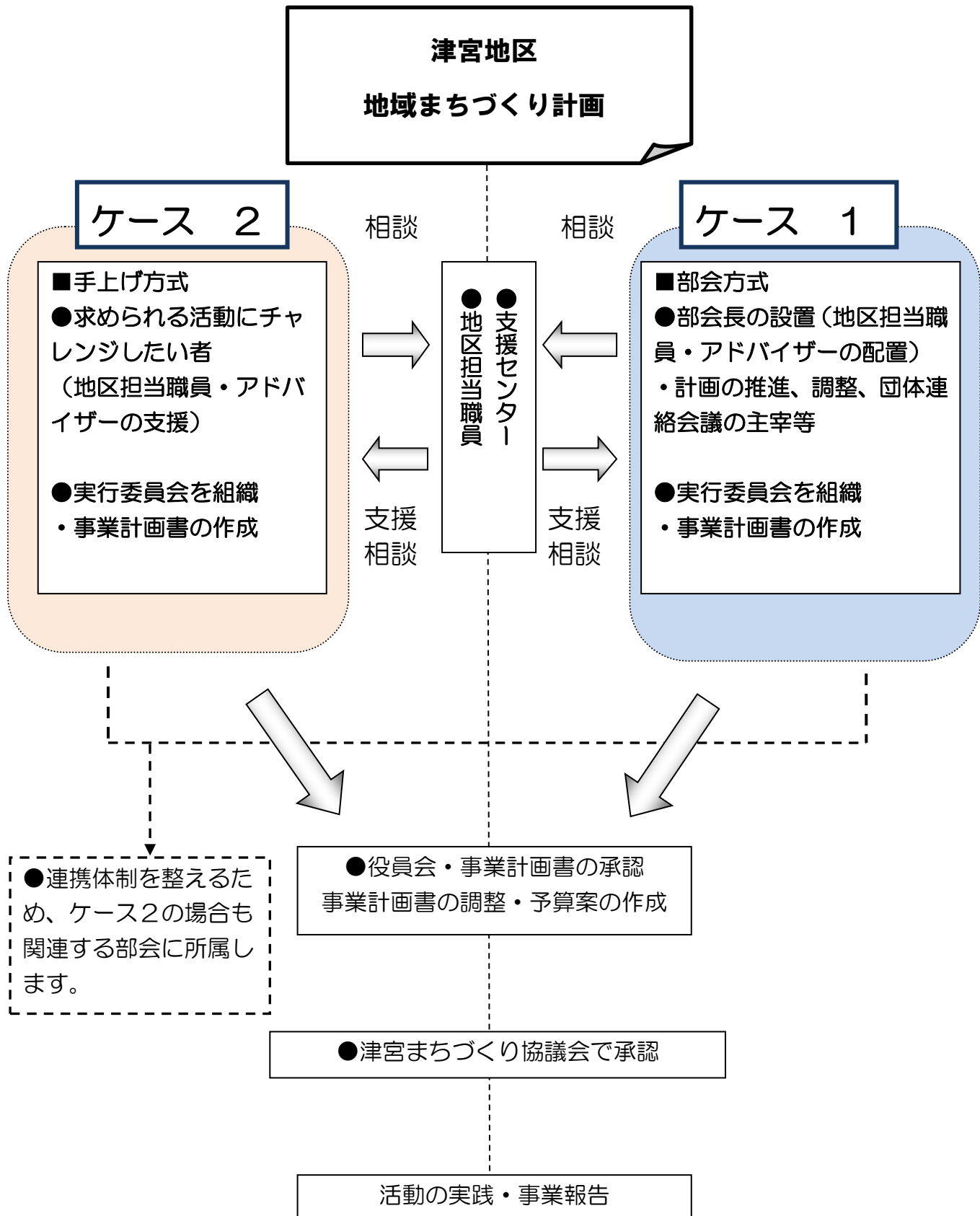
3 推進体制

津宮まちづくり協議会は、地域の課題解決のために、地区内の住民や各種団体が話し合い、調整、実践していく場として位置づけ、住民や各種団体等が互いの持ち味を活かしながら、横につながり合い、将来像や活動目標の実現に向けて、協働で計画を推進していきます。

■津宮まちづくり協議会の組織構成図



4 地域まちづくり計画実践の流れ（イメージ）



むすびに

平成18年3月の合併により、香取市の行政区域は拡大しましたが、各地区においては、自治会や各種団体が主体となり、まちづくりに取り組んできた地域性があります。

まちづくり協議会（住民自治協議会）は、それらの地域性を尊重し、住民の皆さんが自発的に地域の課題に取り組むことができる仕組みであります。

住民アンケートでの回答の中には、災害時どう対応したらいいのかわからない、一人暮らし高齢者の生活が心配、通学路が危険、津宮幼稚園の存続を望む、ゴミのポイ捨てが目立つなど、住民の方々から地域の課題について多くの意見をいただきました。

これらを地域の課題として捉え、津宮地区一体となって考え、行動し、また行政と役割分担しながら連携・協力して地域課題を解決したり、地域の明るい将来を実現させるのがまちづくり協議会です。

『津宮まちづくり協議会』は、本計画書に基づき、津宮地区の目指す将来像の実現に向けて、住民どうしの絆を深め、皆さんの知恵と力をお借りしながら、今後の活動を進めたいと思いますので、住民の皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

理事会



安全環境部会



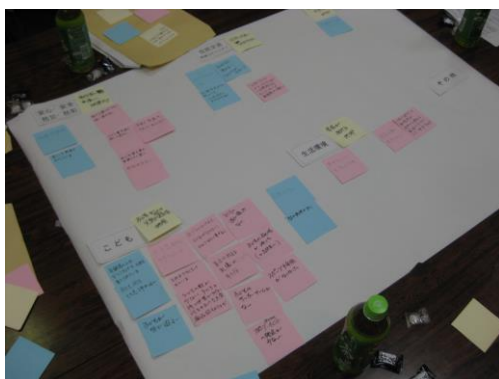
子ども部会



福祉健康部会



各部会ワークショップ



計画策定委員会



資 料 編

目 次

- 1 地域まちづくり計画策定経過・・・・・・・・・・ 1
- 2 地域まちづくり計画策定委員会設置要綱・・・・・・・・ 2
- 3 部会別等ワークショップ関係資料・・・・・・・・・・ 9
- 4 住民アンケート調査関係資料・・・・・・・・・・ 19
- 5 住民アンケート調査 自由意見・・・・・・・・・・ 25



津宮まちづくり協議会 地域まちづくり計画策定経過

期 日	会 議 名 等	内 容 等
24年 6月14日	24年度第1回理事会	・まちづくり計画の策定について ・計画策定補助金申請について
6月下旬～ 7月	住民まちづくり アンケート調査	・津宮地区内の全世帯を対象に、地区の課題や今後、取り組むべき内容等に関するアンケート調査を各区長の協力のもと実施
7月～8月	(市)住民アンケート調査結果の集計・分析	・上記まちづくりアンケート調査結果を集計、回答結果を分析
7月30日	(市) 第1回地区担当職員連絡会議	・地域の課題、将来像及び協議会活動の方向性等について、ワークショップ形式による意見交換を実施
8月2日	第1回安全環境部会	・アンケート調査中間集計結果の報告 ・部会ごとに、地域の魅力や課題、将来像及び協議会活動の方向性等について、ワークショップ形式による意見交換を実施
8月3日	第1回子ども部会	
8月10日	第1回福祉健康部会	
8月31日	第2回子ども部会	・アンケート調査最終集計結果、各部会ワークショップ開催結果等の報告 ・上記結果を踏まえ、別添「事業検討シート」のとおり部会ごとの活動方針や取り組み内容等について検討、意見を集約
9月27日	第2回安全環境部会	
9月28日	第2回福祉健康部会	
10月4日	地域コミュニティ部会	
10月19日	第1回計画策定委員会	・アンケート調査、各部会の検討結果報告 ・協議会の基本方針、活動目標、事業内容及び事業推進体制等について協議
10月下旬	アンケート調査結果の回覧	・アンケート調査結果について地域住民へ周知
11月13日	第2回 計画策定委員会	・地域まちづくり計画素案の検討、承認 ・24年度事業計画及び推進体制等の検討
12月7日	第2回理事会	・地域まちづくり計画(案)の協議 ・部会の設置、今後の活動等に係る協議

地域まちづくり計画策定委員会設置要綱

（設置）

第 1 条 津宮まちづくり協議会（以下「協議会」という。）の地域まちづくり計画を策定するため、地域まちづくり計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

（組織）

第 2 条 策定委員会の委員は、協議会の委員の中から、協議会の会長が指名した者をもって組織する。

（所掌事務）

第 3 条 策定委員会は、第 1 条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- （１） 地域まちづくり計画に係る調査及び研究に関すること。
- （２） 地域まちづくり計画の作成に関すること。
- （３） その他第 1 条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（委員長及び副委員長）

第 4 条 策定委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員の中から協議会の会長が指名する。

3 委員長は、策定委員会を主宰し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員の中から委員長が指名する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（部会）

第 5 条 策定委員会にその所掌事務に係る専門事項を分担させるため、次の部会を置く。

部会の名称	所掌分野
福祉健康部会	地域福祉及び健康等に関すること
安全環境部会	防災、防犯、環境保全等に関すること
子ども部会	青少年育成、学校協力活動等に関すること
地域コミュニティ部会	住民活動、住民生活等に関すること

- 2 部会は、部会長、副部会長及び部会員をもって組織する。
- 3 部会長は、策定委員会の委員の中から、副部会長及び部会員は、協議会の委員の中から、理事会で選出した者をもって充てる。

（部会の会議等）

第6条 部会長は、部会の会務を総理し、会議の議長となる。

- 2 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 部会は、所掌分野に係る地域まちづくり計画原案の策定のため、具体的な事項について審議する。
- 4 策定委員会は、部会でとりまとめた事項を総合的に検討する。

（会議の招集等）

第7条 策定委員会の会議は、委員会にあっては委員長、部会にあっては当該部会長が必要に応じて随時開催するものとする。

- 2 策定委員会及び部会の会議に必要と認めるときは、会議に所属する以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

（会計）

第8条 策定委員会の経費は、市補助金及びその他の収入をもって充てる。

（委任）

第9条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営等に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成24年6月14日から施行する。
- 2 この要綱は、策定委員会の設置の目的が終了した時点をもってその効力を失う。

津宮地域まちづくり計画策定委員会 委員名簿

(敬称略)

委員長	本宮 健一	区長会長経験者
副委員長	鈴木 欣示	区長会長経験者
委 員	藤原 武	区長会長経験者
	石田 誠一	区長会長経験者
	本宮 大江	地区社協顧問
	高安 弘明	地区社協会長
	久保木 能正	区長会会長
	高木 勇	地区社協事務局長
	米本 博子	母子福祉協力員
	高安 光子	津宮婦人会
	高木 哲吉	農業委員
	本宮 茂幸	津宮小学校 PTA 会長
庶務	林 光一	地区担当職員
	久保木 浩明	
	高安 孝一	
	山本 祐介	
	野口 将行	

(敬称略)

No.	氏 名	部会	部会役職	所属団体等
1	高安 弘明	福祉健康部会	部会長	地区社会福祉協議会
2	高安 光子	福祉健康部会	副部会長	津宮婦人会
3	大崎 勇市	福祉健康部会	部会員	津宮区長会選出
4	竹本 房子	福祉健康部会	部会員	民生委員・児童委員
5	瀬川 晃一	福祉健康部会	部会員	民生委員・児童委員
6	鈴木 康子	福祉健康部会	部会員	民生委員・児童委員
7	久保木 泰史	福祉健康部会	部会員	民生委員・児童委員
8	本宮 あい子	福祉健康部会	部会員	津宮婦人会
9	久保木 克子	福祉健康部会	部会員	津宮婦人会
10	高木 昭子	福祉健康部会	部会員	母子福祉協力員
11	本宮 誠一	福祉健康部会	部会員	身体障がい者福祉会
12	本宮 昇	福祉健康部会	部会員	高齢者クラブ
13	久保木 勇一	福祉健康部会	部会員	体育指導員

(敬称略)

No.	氏 名	部会	部会役職	所属団体等
1	石田 誠一	安全環境部会	部会長	自主防災会
2	久保木 新司	安全環境部会	副部会長	消防団
3	山本 浩司	安全環境部会	部会員	消防団
4	久保木 愧	安全環境部会	部会員	交通安全協会
5	竹本 自八	安全環境部会	部会員	交通安全指導員
6	都丸 良治	安全環境部会	部会員	防犯協力員
7	久保木 啓司	安全環境部会	部会員	神道山ボランティアクラブ
8	多田 芳樹	安全環境部会	部会員	防犯パトロール隊
9	加藤 節夫	安全環境部会	部会員	千人ボランティア会
10	阿部 泰宏	安全環境部会	部会員	香取警察署津宮駐在所

(敬称略)

No.	氏 名	部会	部会役職	所属団体等
1	本宮 茂幸	子ども部会	部会長	津宮小学校 PTA
2	宮本 洋	子ども部会	副部会長	青少年相談員
3	久保木 孝之	子ども部会	部会員	青少年相談員
4	久保木 勝美	子ども部会	部会員	青少年相談員
5	本宮 裕之	子ども部会	部会員	青少年相談員
6	久保木 正明	子ども部会	部会員	青少年相談員
7	本宮 由佳	子ども部会	部会員	子ども会育成連合会
8	山本 和枝	子ども部会	部会員	子ども会育成連合会
9	佐々木 知子	子ども部会	部会員	津宮小学校 PTA
10	保科 哲也	子ども部会	部会員	津宮小学校 PTA
11	多田 玉江	子ども部会	部会員	津宮小学校 PTA

(敬称略)

No.	氏 名	部会	部会役職	所属団体等
1	久保木 能正	地域コミュニティ部会	部会長	津宮6区
2	藤田 繁	地域コミュニティ部会	副部会長	津宮11区
3	石橋 昭司	地域コミュニティ部会	部会員	津宮1区
4	久保木 哲雄	地域コミュニティ部会	部会員	津宮2区
5	高安 美典	地域コミュニティ部会	部会員	津宮3区
6	多田 博昭	地域コミュニティ部会	部会員	津宮4区
7	保科 益夫	地域コミュニティ部会	部会員	津宮5区
8	高安 敏幸	地域コミュニティ部会	部会員	津宮7区
9	佐々木登志夫	地域コミュニティ部会	部会員	津宮8区
10	鈴木 啓介	地域コミュニティ部会	部会員	津宮9区
11	本宮 澄秋	地域コミュニティ部会	部会員	津宮10区

※ワークショップの開催にあたって

ワークショップでは、「参加者同士が創造的な発言を自由に行って意見交換をし、立場や意見の違いを相互に理解し合う中で、問題を解決するための合意形成を図っていくこと」に重点が置かれています。

このため、共通ルールとして、以下の基本原則に則って会議を進めます。

1) 禁止事項の3原則 — 「非難なし」、「肩書きなし」、「文句なし」 —

「非難なし」・・・意見を出し合う場面において、人の発言への非難を禁止

「肩書きなし」・・・参加者の肩書きは、意識しない。

「文句なし」・・・グチよりも課題解決に向けた話し合いを

2) 班編成 — 全員が発言できるよう少人数の班を編成します —

全員が発言できるよう参加者を5～7人程度の班に分けます。

3) 司会進行 — 各班の進行役が議事を進めます —

進行役は、地区担当職員、又は支援センター職員が務めます。

進行役は、参加者の発言機会が均等に与えられ、それぞれの発言が平等に扱われるよう議事を進めます。

4) テーマごとに話し合い — 和やかな雰囲気の中で話し合います —

地域の課題や将来像、今後の取り組むべき活動等について、それぞれの参加者の年齢や社会的立場にとらわれることなく、対等な関係で話し合います。

5) 意見を出し合い、グループ化 — できる限り多くの（率直な）意見を —

できる限り多くの意見をいただくため、個人で考える時間を設定します。

付箋紙に各自の意見・提案などを書き込んだうえで、発言してもらいます。

また、その付箋紙を模造紙に貼り、グループ化の作業をします。孤立した意見や対立する意見が出た場合でも、貴重な意見として尊重します。

6) 最後に、各班の話し合いの結果を発表 — 全員の共通理解を図ります —

参加者全員の共通理解を図るため、各班で話し合われた内容について、各班5分程度で発表します。

ワークショップの具体的な進行方法について

1 「地域の現状・課題について」 (約15分)

(1) “気になる現状” [悪いところ・困っているところ] ⇒ 赤色付箋

(2) “好ましい現状” [良いところ・このまま継続したいところ] ⇒ 青色付箋
各自意見を記入する。【1人各5枚以上目標】

地域の現状について、日頃から抱えている実感や思いなど意見を、“気になる現状”を赤色付箋紙に、“好ましい現状”を青色付箋紙に1項目ずつ簡潔に書き出す。(できるだけ具体的に)

■ 気になる現状は？ (例)

地域活動に関わろうとする人が
年々少なくなっている

■ 好ましい現状は？ (例)

各団体の活動が旺盛で、
地域に活性化されている

※行政に要望するような、道路や施設整備等に関する意見は除く。

2 「地域の現状」について、付箋紙の内容を確認しながら、共通理解を図り、整理する。 (約15分)

- ・ 記入した意見を各自披露しながら、分野に分け、模造紙に付箋を貼り付けていく。分野ごとに見出しをつける。
- ・ 抽象的な表現や単語のみの表現の時は、付箋貼り付け時に、進行役が適宜、質問等により補足を加え、具体的に記入する。
- ・ 複数分野に関係する意見は、主と思われる分野に貼り付けする。

【具体的な検討項目】

- ・ 防災 ・ 防犯 ・ 健康、高齢者福祉 ・ 生活環境
- ・ 子ども (安全、教育、子育て、子ども会、世代間交流 など)
- ・ 住民交流・地域コミュニティ (区や団体等の組織、運営のルール、スポーツ、レクリエーションイベント、あいさつ、雰囲気 など)
- ・ 産業 (農業、特産品、働く場、新たな産業の創出 など)
- ・ 交通 (鉄道・バス等、道路、利便性、自転車、歩道、安全性など)
- ・ 文化、歴史 (伝統文化、文化財、など) など

3 「こんな地域にしたい」、「こういう地域になってほしい」という地域の将来像 (目標、スローガン等) について意見が多く出た分野を中心に話し合い、進行役がその結果を総括し、模造紙に手書きで記入する。

(約10分)

4 「こんなことをしたい」&「あんなことをしてほしい」！（約15分）

〔今後、自分たちでやってみたい（やるべき）と思うこと〕 &
〔誰かにやってもらいたいこと、続けてもらいたい活動など〕

⇒ 黄色付箋

- ・地域のいいところをさらに伸ばすために必要な活動は？
 - ・地域の課題解決のために必要な活動は？
 - ・現在の活動を基に、続けて（発展させて）もらいたいことは？
- などの観点から、各自意見を記入する。

これまで話し合ってきた地域の現状や将来像を踏まえ、地域で取り組む具体的な活動内容について、どんな取り組みや活動が必要かについて、各自意見を記入する。

■具体的な活動内容・取り組みテーマ（例）

災害の時など、地域で助け合うことができるシステムの構築

住民誰もが安全・安心して暮らせる
防犯活動の実施

魅力ある行事の開催など地域で集まる機会を増やす。

もっと地区の人々の参加を増やし、子どもの見守りを強化する

住民の健康づくりに継続して取り組める仕組みをつくる。

通学路の清掃や草刈りなど、もっと地域での環境美化活動を充実させる。

○具体的な（案）があれば、
「～のための活動（運動）として、定期的に（毎日・年1回）～をする。」

5 「こんなことをしたい」&「あんなことをしてほしい」！について、 お互いの意見を出し合う、聞き合う。（約20分）

- ・記入した意見を各自披露し、分野ごとに、付箋紙を貼り付ける。
- ・相対的に意見が多く出た分野など特に取り組む必要がある課題、将来像及び今後の活動等について総括して終了する。

午後8時40分から各班の発表時間とするため、それまでに話し合いを終了する。

6 「地域の現状」、「こんなことをしたい」&「あんなことをしてほしい」！ について話し合った概要を各班の進行役が発表する。（各班5分以内）

津宮まちづくり協議会 各部会ワークショップで出された意見等

1	安心・安全・防災・防犯について
現状・課題	【気になる現状】 (防災) ・ 防災訓練等 11 区のみで実施しているが、津宮地区全体での防災に係る活動がない ・ 自主防災組織の組織率が低く、防災に関する地域活動が少ないように思われる。 ・ 水門の管理が無人のため、災害の時に迅速に対応できない ・ 大雨等により田んぼから溢れた水で道路が水没してしまう。 ・ 安心安全のための全員参加の仕組みづくりがない ・ プライバシーの壁があり、家庭の状況を把握できないケースがある ・ 災害時にどのように対処してよいかわからず不安である ・ 行政と地域との連携に問題がある (防犯) ・ (多) 夜の人通りや明かりが少なく、防犯面で不安を感じる ・ 香取駅が無人のため、自転車の盗難などがある ・ 青色の街灯は暗くて、色が悪い ・ 暗い道が多い ・ 街灯が少ない ・ 空き家が増加している (交通安全) ・ (多) 国道356号の歩道幅が狭く、交通量が多い。 ・ 学生が自転車で走っているのを見ると不安を感じる。 ・ 国道の横断が危険 ・ 田んぼ道を車が通るので危ない

	【好ましい現状】 (防災) ・ 一部で地域防災活動が実践されている ・ 地域防災について意識が芽生えつつある (防犯) ・ (多) 治安が良い ・ 落とした財布の中身が何もなくならずに返ってきた ・ 一部で防犯パトロール隊が結成され、自主的に活動している ・ 児童生徒についての防犯・交通安全に対する地域住民の理解度が 高く、実践的な活動をしている (交通安全) ・ 交通事故が少ない。(交通安全意識が高い。)
今後取り組むべき活動	(防災) ・ 地区全体で防災に取り組むべき (防犯) ・ 住民の安全、安心を確保するための見守り活動が必要 ・ 高齢者と子供たちが互いに見守れる環境、例えば、下校時に高齢者に 外の様子を見てもらったり、いつもいる高齢者がいなかったときに 気にかける ・ 夜間の防犯体制を充実させる ・ 夜間の暗い場所、危険な場所を調査し、市へ防犯灯設置を地区要望と して提出する。 ・ 警察の巡回を行う (交通安全) ・ 通学路の安全点検を行い、改善を行う。 ・ 交通事故が発生しやすい道路に事故防止の啓発看板を設置する ・ みんなが思いやりのある運転を行うように心がける

2 生活環境について	
現状・課題	【気になる現状】 ・（多）ごみ出しのルールを守らない（マナーが悪い）人がいる ・ごみステーションの状況が悪いところの一部ある ・ごみ出しのマナーをチェックするシステムをつくる ・物質的に豊かになったせいか、物を大切にする意識が薄くなり、駅への自転車の乗り捨てが増えている。 ・（多）若者の働く場所がない ・子育て世代の勤務先が自宅から通える範囲に少ない ・（多）車がないと生活できない ・飲食店がない ・買い物をする場所がない ・遊ぶ場所がない ・広場が少ない ・津宮新田から本田へ行くのに、電車や車などで遠回りをしなければならず、不便 【好ましい現状】 ・（多）自然が豊か（自然環境に恵まれている） ・利根川に面して良い環境 ・高齢者クラブで月 1 回、香取駅や忠霊塔の清掃活動を行っている ・通学が便利 ・駅や病院が近い
今後取り組むべき活動	・（多）雇用の場の創出 ・（多）若者が働ける地域にする ・廃品回収などリサイクル活動を支援する ・自然を守る、地域の環境を守る様々な活動が必要

	3 健康・高齢者福祉について
現状・課題	【気になる現状】 ・（多）老人が多い ・（多）高齢化の進行が早い ・（多）独居老人が増えている ・（多）独居だけでなく、若い人のいない高齢者だけの世帯も増えている ・高齢者への支援がない ・一部の高齢者だけでなく、多くの高齢者が気軽に参加（交流）できる仕組みや場がない ・親が勤め人の世帯では、その子どもが地区外に居住する（親と同居しない）ケースも多く、高齢化や人口減少の要因となっている ・高齢者等の集まりに賛同する人がなぜか少なく、グループに参加する気持ちが薄れている 【好ましい現状】 ・認知症や要介護者を周囲の人が気にかけている ・高齢者が元気である ・小学校運動会に高齢者が招待され、小学生との交流がある
今後取り組むべき活動	【今後取り組むべき具体的活動等】 ・独居老人の見守りを行うシステムをつくる ・独居以外の高齢者世帯への支援 ・日中に独居となる高齢者の支援 ・子どもや老人などを地域で見守る体制づくり ・高齢者の生きがいづくりができる場の提供 ・通院や買い物など高齢者等の送迎サービス ・健康増進のための実践の場づくり ・健康指導、相談等を地区ごとに行う

4 子ども・教育について	
現状・課題	【気になる現状】 ・（多）少子高齢化が進んでいる ・（多）子供が少なくなっている ・津宮小学校の児童数が年々減っていることが心配 ・幼稚園がなくなるおそれがある ・子どもの声あまりというより、ほとんどというほど聞こえなくなっている ・区によっては、一人も小学生がいないところもあり、廃品回収など何かをやるにも担当することが多くて大変 ・子どもの数が著しく少ない区では、何も活動ができない ・子ども同士の仲がよい反面、年上に対する礼儀が欠けてしまう面も見受けられる ・子どもの遊び場が少ない ・野球やサッカーなど地区の子どもたちで一つのチームを作ってスポーツを楽しむ機会がなくなり、今は何人かの子どもたちでサッカーなどをしながら遊んでいるぐらいである。 ・子どものスポーツやイベントの機会が少ない 【好ましい現状】 ・（多）子どもがあいさつをきちんとする ・幼稚園、小学校、中学校が地区内にあり、子育てがしやすい環境 ・子どもの安全、安心の見守り活動ができている。 ・小学校に対して協力的な地域である。 ・子ども同士の仲がよい ・子どもが外で遊ぶ ・高齢者がボランティアで子どもを見てくれている
今後取り組むべき活動	・（多）サッカーや軽スポーツなど地区全体のスポーツ大会の開催 ・子どもと地域住民が交流できるスポーツ大会の開催 ・子どもが主役のスポーツイベントの開催 ・親子で楽しめるスポーツ大会の開催 ・あいさつ運動を小学生のときから励行する ・子どもが遊べる場所をつくる ・放課後に子どもを預ける学童保育などを設置する ・（多）津宮幼稚園の存続を要望

5 住民交流・地域コミュニティについて	
現状・課題	【気になる現状】 ・（多）盆踊りなど、津宮全体や区ごとの交流の機会が以前と比べ、少なくなった ・（多）区民の交流（話合い）の場が少ない ・世代間（異世代）の交流、行事がない ・近所付き合い、助け合いが重要なのはわかっているが、今は“プライバシー”の壁が障害となって、実践するのが難しい ・津宮全体の行事がなく、区を越えたまとまりが不十分 ・地域（津宮）全体の連帯感があまり感じられない ・地区のことに関心のある人とない人の温度差が激しい ・地域活動に無関心な人が増えている ・自治会への参加が少なくなっている ・すれ違った時のあいさつ、知り合い以外では少ない ・自治会への未加入者が多い ・自治会から脱退する住民が増えている ・住民同士の横の繋がりが薄れてきている ・隣近所の人々の顔が分からなくなっている ・近所の家に気軽にに行けなくなっている ・防犯などのボランティアに活動一生懸命な人と、そうでない人の温度差が激しい ・新しい住民の多い区と少ない区では、住民意識の違いが見られる 【好ましい現状】 ・地域の中で交流がある ・近所どうしお互いに関心を持っている ・退職後に津宮に戻って住む人が少なくない（地域に愛着がある） ・旅行等でも一箇所で乗降りできるなど、各戸の距離が短い ・何かあったときに協力し合える風土である ・区単位では、よくまとまっているように思う ・コンパクトにまとまった地域 ・核家族化は進んでいるが、まだまだ2～3世代同居の世帯が多い ・近所同士の仲がよい（トラブルが少ない） ・周囲で野菜などのおすそ分けの習慣がある

今後取り組むべき活動	・（多）地域での交流を深めるためにイベントを行う ・（多）祭りやスポーツ等を通じた地区住民の交流 ・夏祭りや盆踊りなどのイベントを行う ・初午祭の拡充 ・今ある祭りを活かす（東西両宮の祭典、10 区の獅子舞など） ・祭りを定期的に行う ・地域全体で参加できる行事をつくる ・地域住民が交流できる場づくり ・現状のつながりをなくさないようにイベントを行う、運動教室など簡易なものでもよい ・小学校のイベントで地域参加できるものを増やす ・津宮全体で「祭り」などの開催 ・地区運動会の復活 ・ボランティア活動などを行う時に、人口の少ない区の負担を、津宮地区全体で補完するシステムをつくる ・地域資源マップを作成する（看護師、医師等の人的資源も含める） ・自治会への加入を推進する ・行政懇談会を地区で行う
------------	---

	6 その他
現状・課題・今後の活動等	【気になる現状】 ・（多）買い物が不便（店がない） ・地域の伝統や文化、歴史について関心が薄れてきている ・農業従事者の高齢化と後継者の不足 【好ましい現状】 ・（多）JR、高速バスなど交通の便は恵まれている（そんなに悪くない） ・10 年後も安心して暮らしていける地区 ・駅を中心にまとまっている地区である ・地域の歴史、伝統、文化が残っている ・交通事故が少ない 【今後取り組むべき活動】 ・行政と連携して、農業後継者の育成を図る ・高速バスの増便を働きかける（首都圏への通勤アクセスの充実）

【調査票】

～暮らしやすく、愛着の持てるふるさとづくりを目指して～

津宮まちづくり住民アンケート調査

ご協力をお願いします！

今年5月、香取市まちづくり条例に基づき、区長会をはじめ各種団体の横断的な連携・情報交換を図り、地域の様々な課題を解決する「津宮まちづくり協議会」を設置しました。

協議会では、「津宮まちづくり計画」を策定し、津宮地区の将来目標（どのような地域にしていきたいかという「まちづくりの目標」）を立て、その目標に向かって様々な活動を展開していこうと考えています。

つきましては、「津宮まちづくり計画」を作成するにあたり、津宮地区にお住まいの皆さんの意見を大切に、反映させることが重要であることから、地域住民の皆さんの意見を伺うため、アンケート調査を実施いたします。

お忙しいところ恐縮ですが、以下の点に気をつけていただき、ご協力をよろしくお願いします。

◇記入にあたってのお願い

- この調査は、年代や男女の別など幅広く皆様から意向を伺いたいと考えております。したがって、今回、各世帯へ2部ずつ調査票を配布いたしますので、高校生以上の世帯員2名のアンケートをお願いします。

※高校生以上の若い世帯員がいらっしゃる場合は、2部のうち1部を若い方に記入いただけますようご配慮願います。

※単身世帯の方は、調査票1枚のみの記入をお願いします。

- この調査票は、封筒表面に記載のとおり区長、又は区役員等が回収しますので、そのときにご提出いただくか、各自で区長、又は区役員等までお届けください。
- なお、このアンケート調査で得られた回答データ及び個人情報については、当協議会の活動以外の目的には一切使用しません。

【問い合わせ先】

香取市佐原市民活動支援センター（香取市役所2階）

担当 浅野、大竹

☎50-1213

Fax52-4566

津宮まちづくり協議会

アンケートをご回答いただくにあたって・・・

- ・選択方式の場合は、該当する欄の数字のところを、○でお囲みください。
- ・「複数回答可」の欄は、該当する欄のすべてを、○でお囲みください。
- ・（ ）欄は、記述になっていますので、それぞれのお考えなどをご記入ください。
- ・アンケートの設問内容がわからなかったり、難しかったりするところがあれば、わかる範囲でご回答ください。（むやみに○を入れず、無回答にしてください。）

問1 お住まいの地区は、どこですか？

1 : 1☐	2 : 2☐	3 : 3☐	4 : 4☐	5 : 5☐
6 : 6☐	7 : 7☐	8 : 8☐	9 : 9☐	10 : 10☐
11 : 11☐				

問2 性別は、どちらですか？

1:男 2:女

問3 あなたの年齢は、満何歳ですか？

1: 15~18歳 2: 19~29歳 3: 30~49歳
4: 50~64歳 5: 65~74歳 6: 75歳以上

問4 同居の家族は、あなたを含めて何人ですか？

1 : 1人 2 : 2人 3 : 3人以上

問5 津宮地区に住んでいる理由は、何ですか？

- 1：生まれも育ちも津宮地区（若い頃に一時的に他地域に住んでいた人も含む。）
- 2：結婚した相手が津宮地区出身者だった。
- 3：新たな居住地として津宮地区に住んでいる。
- 4：その他（ ）

問6 津宮地区は、住みやすい地域だと思いますか？

- 1：思う
- 2：思わない
- 3：わからない

問7 津宮地区の治安は良いと思いますか？

- 1：良いと思う
- 2：以前と比べると、悪化していると思う
- 3：わからない

問8 これからも津宮地区に住み続けたいと思いますか？

- 1：ずっと住んでいたい
- 2：当面は住みたい
- 3：いずれは他地域に移りたい(理由：)
- 4：わからない

問9 自分の子や孫にも将来津宮地区に住んでほしいと思いますか？

(お子さんがいらっしゃらない場合は、いると想定してお答えください)

- 1：ずっと住んでほしい
- 2：他地域に住んでもよい
- 3：若いうちは他地域でも構わないが、いずれは住んでほしい
- 4：わからない

問10 津宮地区の将来を考えるうえで、重視すべきことは何ですか？

(複数回答可)

- 1：近所や地域のつきあい・助け合い
- 2：個人のプライバシー
- 3：青少年の健全育成
- 4：子どもの安心・安全の確保
- 5：子育て支援活動の充実
- 6：高齢者の生きがいや健康づくり

次ページへ続く

- 7：祭りやイベント、スポーツ等を通じた地区住民の交流
- 8：住民の健康維持や介護予防のための取組み
- 9：地域の清掃活動、ごみのポイ捨て解消などによる生活環境の改善
- 10：田園景観、水辺や緑などの自然環境の保全
- 11：震災、水害、火災などに対する防災対策
- 12：治安維持のための防犯対策・防犯活動
- 13：歴史や文化の保存・継承
- 14：農業後継者の育成（農業の振興）
- 15：雇用の場の確保
- 16：通院や買い物など移動手段の確保（バスなどの公共交通の充実）
- 17：地域を担う人材の育成
- 18：ボランティア活動の推進
- 19：その他（ ）

問11 少子化は、津宮地区においては深刻な問題です。

そんな中で、地域で、できることは何だと思いますか？（複数回答可）

- 1：若者が地域に定着できるよう、魅力ある地域づくりを行う
- 2：子ども時代に地域の自然の中で遊び、学ぶことにより、地域への愛着心を育む
- 3：祭りなどの地域行事を通じた地域住民のコミュニケーションを充実させ、人と人とのつながりを大切にしたい地域づくりを行う
- 4：放課後に面倒を見るなど、地域全体で津宮地区の子供たちを育て、見守り、子育てがしやすい環境づくりを行う（例：放課後児童クラブ、放課後子ども教室 等）
- 5：少子化対策は全国的に行われていても解決に至っていない難しい問題であるので、地域でできることはない
- 6：わからない
- 7：その他（ ）

問12 地区の安全対策として、地域で行えば良いと思うことは何ですか？

（複数回答可）

- 1：子どもの通学の際の見守り活動
- 2：高齢者世帯の健康確認を含めた見守り活動
- 3：災害時における要援護者の把握と援護体制づくり

次ページへ続く

- 4：地区全体で毎年、防災訓練を行い、地震などの自然災害や火事などに備える
- 5：高齢者を対象にした交通安全教室や防犯教室の開催による意識啓発
- 6：安全・安心対策は各自で行うことであり、地域が行うことではない
- 7：その他（ ）

問13 高齢者福祉に関することで、地区にあったらいいと思うサービス（事業）はありますか？（複数回答可）

- 1：高齢者などを対象にした昼間の見守り活動
- 2：趣味の活動の場など、多くの方とふれあえる機会の提供
- 3：好きなときに集まり、交流ができる（交流サロンなど）の開設
- 4：健康維持や介護予防のための健康教室の開催
- 5：病院や買い物などへの送迎サービス
- 6：高齢者と同居していないので、わからない
- 7：その他（ ）

問14 まちづくりというと、どのようなイメージがありますか？

- 1：行政が主体的に進めるもの
- 2：一部の人たちが行っているもの
- 3：住民が主体的に行うもの
- 4：住民と行政が協働で行うもの
- 5：わからない

問15 これからのまちづくりには、住民参加が不可欠だと思いますが、あなたは、どのようにお考えですか？

- 1：何事にも積極的に参加したい
- 2：内容や頻度等によっては、積極的に参加したい
- 3：頼まれれば、可能な範囲で参加・協力したい。
- 4：関心がない
- 5：わからない
- 6：その他（ ）

問１６ あなたは、「津宮まちづくり協議会」が設立されたことを知っていましたか？

- １：知っていた
- ２：知らなかった

問１７ 地区で解決することが必要と思われることについて、具体的なご意見やアイデアがありましたら、ご記入ください。

●地区で解決したほうがよいと思われる課題など

--

●地区の課題を解決するためのアイデア・意見等

(例：津宮地区住民相互の親睦を深めるため、地区運動会を開催する など)

--

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

※今後の「津宮まちづくり協議会」の活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

津宮まちづくり住民アンケート調査 自由意見

平成24年6月実施

防 犯

- 住民等に危険と思われる個所や支障を来たと思われる個所について、少しずつでも改善していくこと。（防犯、防災、生活等の観点から。）
 - 防犯（防災）活動（訓練・支援）の実施
 - 夜間の防犯対策 → 夜間に香取駅を利用するが、不審者と思しき人々がいったりして結構怖い。
 - 子供たちの通学路の安全。
 - 防犯活動の推進を図る。
 - 不審者等治安上好ましくない人物・集団が地区に現れた時の情報提供・伝達について検討すべき
-
- 警察のパトロール（特に夜間）の強化。
 - 防犯活動について、地区の派出所の署員がコミュニケーションを図り防犯に努めてもらいたい。
-
- 外灯増やしてほしい。
 - 最近の外灯（街灯）の色が不愉快です。白色に戻したい。
 - 外灯の色が暗く感じる。（青色の外灯一部） 前の白い外灯の方が良い。
 - 通学路の照明が少なく、夜間とても暗い。
 - 地区全体が暗い、県道沿いの整備
 - 道の外灯の少なさ
→部活や学校、遊びに行ったりして遅くなって駅から帰るとき、外灯が少なく暗いため周りがあまり見えません。少し危ないような気がします。高校生ぐらいになると遅くなることも多いので。
 - 津宮地区全体において外灯が少なすぎる。蛍光灯が切れていてもそのままになっている。
 - 外灯の設置（現状が少なすぎる）。1区～9区までの県道に歩道を作り津宮地区の住居環境の整備を図る。（あまりにもひどい。）

防 災

- ・防災対策の実施（訓練を行い、住民の安全を図る。）
 - ・大きな災害時などの避難方法等協力体制がわかっていると良いと思う。
 - ・現区長会に準じた組織づくり（防犯・防災その他の活動を勘案）。
 - 例１→防災訓練「班単位訓練・区単位訓練・全体訓練」
 - 例２→火災発生時の初活動 「通報連絡・近隣の応援・避難誘導」
 - 災害発生時の地区連絡網的なもの。
 - ・地区全体的な防災訓練。居住地域ごと大きく分けて隣近所、災害時避難できるように。
 - ・震災を機に、「利根川の洪水」に対し現実的な問題として漠然とした不安感を持っています。地区住民へ啓蒙していく上からも一人でも多くの人に参加できる防災訓練は喫緊の課題であると思います。
 - ・水防対策に関し、住民の意識高揚するような意見交換会などを開催する。
 - ・大雨、台風時の水害対策が解決していない。津宮地区の大きな課題と思われるので、是非、取り組んでいただきたい。
 - ・集中豪雨対策として六トン水路の排水能力増強を市や土地改良区へ協力要請。
-
- ・防災道路が狭い。緊急時に対処できない。震災が多い昨今、道路整備は急ぐべきだと思う。
 - ・道路が狭くて、救急車も消防車も入れないので、不安。
 - ・防災道路を整備すべき。緊急車両の進入が妨げられている個所も多くある。道路幅を広げる協力体制（用地の無償提供等）を取ることを住民相互で実施し実行は行政でお願いしていく。
 - ・海拔表示について、電柱に海拔表示のラベルを取り付け住民に防災意識を持ってもらう。→ 行政に依頼する。
 - ・仕事内容によって協力を願う。災害時対応で重機など。
 - ・利根川のスーパー堤防（国道）を進める
 - ・3.11 大震災時の市役所の対応の悪さ、遅さには目を覆いたくなるばかりであった。今後、同様のことが起こっても市役所はあてにならないと思慮する。
 - また、防犯対策についても市役所の対応は不満が残る。市役所がやっていることは、全ておざなりな気がする。よって、津宮独自の防犯組織、防災組織の設立をするべきだと思う。

環境美化・保全

- 通学路、農道等の空き缶、ペットボトル、その他ゴミ類の回収（清掃）
 - ゴミ拾いボランティア活動の実施
 - ゴミ拾いを定期的に行う。 • 休日に清掃活動を実施する。
 - 区ごとで地区の清掃を行いながら、住民交流をする。
 - 区毎に、年間に数回美化デーを設けて作業をする。
 - 環境美化の日、津宮全体で行動し、ゴミは自分の家に持ち帰り、ゴミ出しの日に出す。
 - 現在、行われている「ごみゼロ運動」を当協議会が主導して地区全体の活動として実施していく。
 - ゴミ収集所に住人以外（一部の人）の人がルールを守らずゴミを捨てている。
 - 環境整備 →ポイ捨て（タバコ、空き缶、ペットボトル）禁止の徹底
 - 道路沿いの草刈は各区の住民が協力してやって欲しい。
 - 河川敷に捨てられたゴミの山や野焼きへの対応
 - 指定日以外に置いて行く人が非常に多い。特に生ごみは犬、猫による散乱が目立ちます。
 - ゴミ収集所の整備のため、居住している人全員で清掃活動
 - ゴミ置き場が遠すぎます。班に1つは設置してほしいです。小さい子供がいるので、遠くまで運ぶのは大変です。
 - 2区の大河岸のゴミ捨て場があまりにも乱雑。遠くの人が車で捨てに来る。植木の剪定、野菜くずはそのまま。せめて指定袋に入れて欲しい。
- 神道山に四季折々の花、草花等を植える。例えば栃木市の大平山の山肌につつじ、さつきが満開の五月の頃は全国より観光客で賑わいます。
- また、各家庭で丹精込めて作った草花をボランティアで寄付して頂き競い合う品評会もお年寄りの励みになると思います。そして階段を登ることで健康の一助にもなります。近くは利根川の悠々とした景色、遠くは水郷大橋、筑波山が景観出来る見晴台もあります。明治時代はちょっとした観光場所だったようです。
- 駅近くに季節感のある花などをもっと育てて、きれいな外観を作る。
 - 香取市は観光地として多くの人が見える。香取駅にはハイキングをしながら名所巡りをする方が多く訪れますが、道路の整備（草刈り、側溝の土等）の手入れが不十分です。自分達が観光地に出かけて手入れがされているところ

を散策すると大変気持ちよく過ごせます。住民が定期的に手入れする計画をされることを望みます。

- 昔、大河岸公園の以前は取水口があり、船着き場であったので、田植の始まる前か、稲刈り前に、水路を共同で清掃していた。この地域の水路は「エンマ」と呼ばれ、水面は美しいものであった。水郷の良さは水の美しさである。もっと「エンマ」を大切にできたら良いと思っています。活用したら良いと思います。
- 区長からゴミ捨て場の移動の申請を出してもらいたい。例えば、国道沿いの大河岸公園への設置、もしくは火の見やぐらの下など
- 可愛いだけで動物（犬）を飼われては困る。他人に迷惑になる様な飼い方はしないでほしい。

高齢者福祉

- 高齢者の見守り • 高齢者一人暮らし世帯への支援
- 地区ごとの高齢者福祉の充実
- 高齢者への福祉面 → 趣味の活動・病院への送迎。
- 今は家族が多いので、おじいちゃん、おばあちゃん達と子供達の交流の場を設ける。（昔話を聞いたり、同じ時間を過ごすことにより子供達が学べる事が数多くある）
- 高齢者の人達と、その他（若者、子供）世代との交流は現在もやっているが、もっと盛んになると良いと思う。
- 高齢者と小学生、保育、幼稚園児等が共に集まり、互いに見守りとなるための場所や状況づくり
- 高齢者のサロンとして津宮コミュニティホームを開放
- 一部シルバー会の方がグランドゴルフ、ゲートボール、清掃等の活動をしているが、老若男女の集まるバザー等を取り入れれば、多少は活性化される。
- 高齢化に伴う生活支援
→ 独居老人、高齢者のみの世帯に対するケアが必要
- 高齢者は曜日を問わないので、市バスを活用した安経費で親睦旅行を計画してくれると、個人意思なので参加しやすい。

- 核家族が増えている中、子供と同居していても淋しいお年寄りがいる。そんなお年寄りに何か、身近で楽しめるもの（字を書いたり、折り紙をしたり、ちょっとした体操をしたり）など、町内の公民館を利用してできたらいいな一と思いました。
- 行政、ボランティアなどによる訪問（声掛け）活動。誰がどこに住んでいるか一目でわかる様な・・・（交流会もいいが地域で回覧板をまわす時に、どこに行けばよくわからない（特に若者はよくわからないと思う）ので、地域地図などがあるといいのでは。）
- 高齢者が増えているので駅や国道付近のバリアフリー化
- 空き家を活用したサロンづくり、ホームページ等で紹介もする。都会人は農業（軽作業）をやってみたいと思う人が多いと聞いているので、週末農家的設備を作ればそれに関わる高齢者も雇用機会が増え生きがいとなるのではと考える。

子ども・教育

- 子育て支援を地域で考える。（放課後児童クラブは是非お願いしたい。）
- 放課後、子供を見てくれる所をつくる。（民間施設を利用する人が多いので。）
- 短時間子供を預かってもらえる近所の家の設立。（昔の隣近所のオープンなところ）
- 学童保育等の働く家庭の支援。
- 学童保育環境の整備
- 子育て支援の充実・・・放課後の児童の安全を充実するための子供教室等を設置する。共働きしている家庭が多い、働きやすい環境作り、学童保育が必要だと思います。
- 若い世帯が少なすぎる＝子供が少ない。出産後も働く女性はたくさんいますので保育園、児童クラブは絶対に必要です。子育てしやすい環境でなければ、子供の数は増えないし、若い人たちも魅力を感じないと思います。
- 土、日に気軽に子供たちが遊べる施設、児童館で夏などクーラーが効いて熱中症にならず過ごせる場所。色々なイベントや工作教室など行って楽しく過ごせる所をつくった方がいい。

- 保育園、幼稚園等の整備や放課後子供達のケア。
- 若い世代が津宮を離れて行っています。同級生はほとんど住んでいません。成長していく過程で、地域で地域への愛着心を育んだり地域の方々との交流が不可欠だと思います。それには地域に学べる場、交流する場が必要です。
- 少子化により、近所に同世代の遊び相手がいないこと。
- 10区の子供達のあらましが北佐原小へ行っているため、これからは本田との交流が難しくなる感じがします。
- 昔は当たり前のようにあったラジオ体操等子供達に参加できるものの復活。
- 子どもを大事にする日 →小学校で1日（半日）子供と大人で遊ぶ日。
- 祭を通じた交流や伝統文化を確保したり、青少年の健全育成のため、神社の清掃や境内の整備、行事や祭り等を行う。
- 少子化問題。若い人の地元離れ。
- 地区に子供達が遊べる公園がほしい。
- イベントなど区ごとのみの開催でなく、広く参加を呼び掛ける。また、小学校の行事には保護者だけでなく住民参加を促す。
- 津宮地区にはお祭り等の行事がないため、子供達も楽しみがないようです。
- 人数が少ないのだから、幼稚園～中学まで合同で出来る行事があるといい。その際、住人の参加が必要なもので考えればよいと思う。
- 地域の伝統、文化、絆は作ろうと思ってすぐに作れるものではなく、それこそそこに住む人々が世代を越えて長い時間を掛けて醸成し守っていく必要があるものだと思います。

情緒豊かな心や優しさは、幼き日に故郷でどれだけ楽しい思い出が作れたのか、地域の大人達から愛情をもらったかで決まると思います。ゴミ拾いでも清掃でも植栽でも神道山の整備でも何でも良いので、とにかく多くの人と一緒に何かをやり汗を流し時間を共有すること。こういう事を通じて、地域に愛着が湧き、郷土愛が芽生えるのだと思います。少しずつ地道に輪を広げる。これが大切だと私は思います。

津宮幼稚園の存続

- （多数）津宮幼稚園の存続。津宮幼稚園廃園の撤回。
 - 津宮幼稚園の存続はまちづくり協議会での議決で決定すべきです。少子化が地区の深刻な問題でもあるので、幼稚園、小学校、中学校は現状のままで存続するべきだと思います。
 - 今、津宮幼稚園の存続について議論されておりますが、地域から子供を育む場がなくなると、地域の方々と子供たちが交流する場もなくなり、他の地域に学びに行ったり等、地域への愛着心も薄れ、ますます少子化に拍車がかかる原因になるのではないのでしょうか。津宮幼稚園は地域を知りふれ合い、学ぶことのできる大切な場です。ぜひ、まちづくり協議会にて大切な学びの場がなくならないよう、議題に取り上げて頂きたいです。
 - 今年度中で津宮幼稚園も閉鎖されるようですが、このように子育て世代を苦しめるような地域では、どんどん人も生活の場から離れて行ってしまうと思う。少子化を問題だと言うのであれば、子育てしやすい環境を作りはとても重要だと思う。
 - 幼児、児童、高齢者とさまざまな年齢の人たちが安全に生活し、また交流の場を広げる必要があります。今、幼稚園の廃園が議論されておりますが、無くなることは地域の大切な資源の一つを失うことになります。地域の活性化の為に園児の歓声が消えない方策を協議会で検討するよう望みます。
 - 幼稚園閉園後は、高齢者の交流サロン、運動の場等に使用してはどうか。
 - 津宮幼稚園が閉園になった際、児童館にして職員を置いて管理したらいいのでは・・・児童館にしていろいろなイベントをして親交を深めたい。
 - 津宮幼稚園の存続について、組織として取り組むべきと考えます。これが、好結果を生むようなら、この協議会もよい時に設立された・・・との評価を得るかもしれません。
 - 津宮幼稚園の存続はまちづくり協議会での議決で決定したほうが良いと思います。少子化が地区の深刻な問題でもあるので、幼稚園、小学校、中学校は現状のままで存続するべきだと思います。
-
- 津宮小学校の名称維持（校歌の存続）。
 - 小学校の統合の声が聞こえてきますが、もっと住民が積極的に参加し、お互いが納得できるまで議論すべき。

住民交流・地域コミュニティ

- 地区割り 子供の数は勿論だが一人しかいない家も多くて、様々な活動が困難。（区の仕事も早く回ってきそうで・・・）古くからの区割りも大切だが、もっと広く再編できないものか。狭い津宮を11にも分ける必要があるのか。
- 10区は他の地区とのつながりが薄くなってきているが、格差のないようなまちづくりを望みます。また、10区はほとんど北佐原小へ通学しています。西側に住んでいる家からは駅が遠いのが原因です。昔のように、渡し船があればと思います。
- 6区には六成会があります。小学校または区からの要望があれば、ここが対応します。各区にもこういった組織があればよいと思いますが！
- 各行事運営の見直し。
- 集会などに出来るだけ参加してみんなが意見を言える環境づくり
- 自治会（区長会）へ津宮の全世帯の加入を促進する。
- 古くから津宮に住んでいる人たちの結びつきは強く、後から居住した人は中に入ることが出来ないなと思ってきました。このような事も、津宮が住み良いか、否かの要因の一つかと思います。
- 古くからの津宮地区住民と新しく住民となった者との交流をすることによりまちづくりへの意識を高める。
- 特に高齢者の意識改革が必要と思う。自分は津宮の出身であるので、高齢者の気持ちもわかるが、新しく住民となった者との意識の違いは大きすぎる。高齢者が古い考えを捨てて、新しく住民となったものとの意思疎通を図らないと、まちづくりは進まないと思う。
- 世代交代の出来ない家が多いので、地域行事等の簡素化は必要だと思う。
- 少子化により、冠婚葬祭等の簡素化が必要と思われる。
- とても良い地区だと思うので、特に課題はないと思います。高齢者の方々と道で会ったら話をしたりと、とてもフレンドリーですみやすい地域だと思います。
- 近時、価値観の多様化等諸々の現実問題が立ちはだかり、住民同士のコミュ

ニケーションや助け合いといった関係が希薄化している様に思います。そこで
先ずは出来ることから「挨拶運動」の実施を提案します。是非、具体化してく
ださい。

- 近所付き合い、コミュニケーションが失われつつあり、今後は地域一体と
なれる様な行事等を行っては？
- 地区住民のつながりを作る行事。
- 津宮地域の祭り参加について。津宮には祭りが神幸祭位（12年に一度）し
かなくコミュニケーションが取りにくい。（昔は津宮にも祭りがあったと聞いて
いる。）
- 他地域に珍しく、祭りが無いところである。3年神幸祭は、12年に1度と
長い。年に1度”祭り”があっても良い。せめて東西両宮の祭礼は大々的に。
- 祭りの開催。「区長会」は、香取神宮以外のこと。津宮の独自性を持ったイベン
トをやったらどうか？
- 祭を通じた交流や伝統文化を確保したり、青少年の健全育成のため、神社の
清掃や境内の整備、行事や祭り等を行う。
- 盆踊りや祭り、運動会があっても良いと思う。
- 「夏祭り」の開催。長年、津宮幼稚園で夏祭りを行い、子供たちは楽しみにし
ています。今後、幼稚園が閉鎖された場合は、地元で行うのも良いのでは。
- 地区の皆さんが好きな時に集まり交流できる機会があれば良いと思います。
- 津宮地区住民相互の親睦を深めるため地区スポーツを開催する。
例：11区間の運動会。11区間のカラオケ大会。
- 場所、年齢にも問題はありますが、無理のない親睦を深めたいと思います。（マ
ラソン、魚釣り、将棋等）

- 以前、10年以上前に津宮地区運動会が行われていました。今は、小学生の
数が減少しているので、小学校の運動会もずいぶん寂しいものになっ
てしまっているようです。このような行事があると、楽しいかもしれませんが、
人数が集まり運営できる状況かどうかは不明です。何か不都合な事があ
って、実施の継続が困難となってしまったのではないのでしょうか。
- 2回ほど開催したことがある地区対抗運動会はとても良かった。年寄りから
子供まで自分の地区と一緒に応援する姿はとても微笑ましかったです。競う
ことが元気の源だと思います。是非復活を！

- 地区運動会と言っても津宮地区はお年寄りの多いまちです。その年の担当者は必要な人数を集めるのに大変苦労されています。無理に親睦の場を設ける必要もないと思う。市の担当の方々ももっと現実に関心を向けて下さい。きれいごとだけでは何も解決できないと思います。

- 日帰り旅行や一泊旅行などで親睦を深める。
- 趣味の活動の場があれば良いと思う。
- 津宮地区、夏の盆踊り大会とかウォーキング、サイクリングを開催したらいいと思います。
- 区長会とPTAを中心とした地域の祭りの行事。地区対抗・・・縁日とか。
- 子供から老人まで楽しめるイベント。
- 初めのスタートから難しい事は人が集まりにくいので、地区だけのサロン、習いもの教室などからいろいろな課題が生まれそうです。運動会は年寄りとか若者とか家族の少ない人など遠慮しそう。簡単な設備で盆踊り等。
- 趣味などにより交流を深める。文学スポーツなど。

- 前回、香取駅3周年と震災のイベントがありました。市の方へも義援金が集まり、無事開催して頂き盛況に終了しました。また、5周年も開催してみたいと言ってました。こういう企画も、人の集まるイベントとしては良いことだと思います。次回も期待するところであり、住民の協力のもと、是非人の集まるイベントを開催して欲しいものであります！！
- 香取駅前に住民が相互に交流が図られる設備、施設があればにぎやかになっていくのではと思う・・・。

- 各区の区長が3ヶ月に一度位のペースでコミュニケーションを図り、その時の問題点等を話し合い、各区民に報告書を配布する。

- 昔ながらの風情を残しておくこと。誰でも参加できる、習い事の開催。婚活の開催。

- 趣味やボランティアなどの活動を行うにしても、上下関係がなく、平等的なものが望ましいと思います。当事者自身も自発的な参加への意識転換を図れば、地縁等の絆につながると思います。

- こういうアンケートはとても大切だと思いました。津宮に住んでいる自分達でないと気づかない事や真剣に考えてくれないと思いますので、引っ越してきてたくさんの親切な方もまわりに住んでいて、道路事情以外は、大変恵まれていると感じます。
- “いこいの広場” 設置（親睦を深めるグラウンド）早急に。
例 →津宮地区で3～4ヶ所、各規模：50m×30m。
- 住民相互の親睦を図るために、交流の場として空家の利用などが出来ないかどうか？香取駅前の活性化。
- 香取駅前に住民が相互に交流が図られる設備、施設があればにぎやかになっていくのではと思う・・・。空家（無人家）を活用したサロンづくり、ホームページ等で紹介もする。

まちづくり協議会

- 発足したばかりの協議会で何をするのか、できるのか、まだ具体的な課題がわからない。皆が積極的に取り組めるようになるための方法を考えるのが、優先。
- 何を行うにも予算が必要なので、国や市に出してもらい、住民の負担にならないように。
- この地区にはまだ動ける人がいると思います。まちづくり協議会には、呼ばれたから出席するのではなく、自らが進んで前に出て来れる人を探すべきであり、人選すべきであると思います。
- 若い人に出来るだけ参加してもらって意見交換する。
- この協議会が「津宮のまちづくり計画」を策定するということを、このアンケートで知り驚きました。財政的な裏付けはどうなるのでしょうか。市行政の役割はどうなるのでしょうか。
- 20代～30代の若い世代の方をもっと協議会委員になってもらい、意見を聞くと良いのでは。これからの津宮を考えるなら、この先子供をもって育てていく世代ですから。
- 協議会設立、特に推進役になられた委員長、事務局の方々、大変な苦勞があ

ったと思います。各種団体を横断的に整理したと思いますが、人選がくるくる代わるものと、長く続く組織があり意識の差も出てきます。設立した後、やる内容が明確だと活動できるし、そうでないとまとめていくのが大変になると思います。

- 「津宮まちづくり協議会」の活発な活動をお願いしたい。活発な活動から、地区住民の意識改革から参加意欲（ボランティア）各地区の活動推進。
- 今後、このアンケートした意見！？！？ってならないよう、少しでもよくなったらいいいですね。
- 津宮まちづくり協議会について、地区の総会で説明があったが、役員、これらに携わる関係者のみで行われているようで、一般住民は参加しづらい様に感じた。せっかくのまちづくりですから、住民全体が参加できるように。
- 少子高齢化、雇用情勢の悪化、不安定な社会情勢等々の影響をまさに直面している香取市、冷静に津宮地区の将来を見据えた場合、非常に厳しい現実が迫っている。こうした状況を鑑みますと地区で解決できる課題は限られたものになるのではないのでしょうか。高齢者世帯に共通する課題でしかも、取り組みやすい課題、閉鎖的な地区であり心配である。
- 具体的には浮かばないが、イベントの開催より、もっと重要な事があるはず

地域活性化

- 駅前だけでなく、全体的に狭すぎて、住みたい方は減ると思います。
- 人口が増えないことには、地域の活性化は起こらない。少子化の前に「家族」を増やすことの方が先決。働き口も少ない。賃金も安い。良い”人材”はどんどん都市部へ流出する。地域での雇用の安定ができるようになってほしい。
- 若者の他所への流出を防ぐお見合い作戦。
- 交通の便の改善。若い世代に向けた雇用の確保。
- 農業後継者不足による休耕地の増加。
- 香取神宮～香取駅の道路をもっと観光客用に整備して（歩行者の道路を整備したり、神道山付近に埴輪などを置いて観光スポットを増やす。）市内の観光客を誘致する。
- 若い世代の人達が集まって事業を始めたり、店舗を出したり、できるような団体を作ったり、支援してくれるような制度ができれば、この地区で仕事を

して家庭を持ったり生活したいと思う若い人たちが増えるのではないかと思います。

- 休耕地を行政を通じて市民農園として利活用する。地域のボランティア活動により対応する。
- 若い世帯の住民を増やすため、アパートなどをつくる。幼稚園の保育時間の延長（１８時頃まで）。若い世帯の雇用確保。駅付近に駐車場を増やす。さらに、老人ホーム設立、人員を多めに確保。農業系の会社があれば、若い人も農業生産に携わることができ、次世代の後継者が育てられる。
- 空地、空家、物品等の利用を図り、地域でお金を産む仕組み（コミュニティビジネス）の仕組みを作っていく。

その他

- 津宮踏切の大至急工事着工へ！
- 道路の拡張。道路幅を何とかしたい。
- 下水道（農業用水路含む）の整備。
- 堀川農村共同館に水洗トイレを設置する。
- 文化財の保護管理。
- 風神様に雨が降ると水が溜まります。砂等を入れて頂きたい。
- 市ではなかなか実行してくれないので、道路のへこんだ所等の応急処置。
- 店などを充実させて、佐原に買いに行かなくてもいいようにしてほしい。